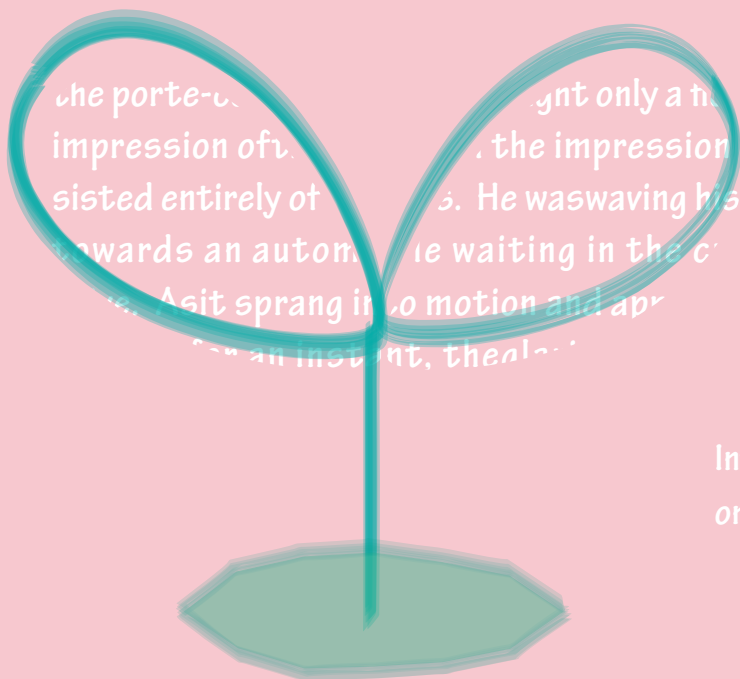
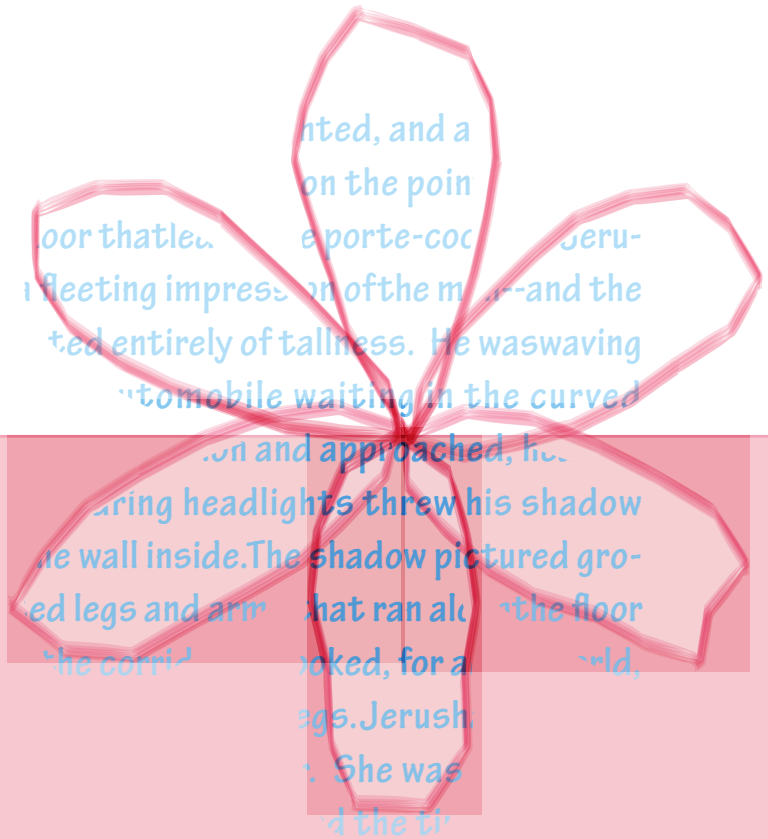


# 高校進学のために 必要な情報と支援

～ 奨学金を利用する高校生と  
保護者のアンケートから ～



Information and support to go  
on to high school

## はじめに

近年、マスコミなどでは、「子どもの貧困」に関する報道が多数なされ、子どもの時期の貧困は、その時期の経済的な不利益にとどまらず生活上の課題ともつながっており、子どもの将来に影響し、更には、その社会的不利が世代間連鎖の可能性があることが指摘されています。本会では、平成22年9月に福祉関係機関と教育関係機関との連携を築き、学齢期の子どもの福祉的支援を充実させるため、福祉と教育の関係者及び学識経験者による「低所得世帯の子どものための情報支援構築プロジェクト」（委員長：立教大学湯澤直美教授）を設置しました。プロジェクトでは、学齢期における特に高校進学等の支援体制のあり方の検討に資するため、奨学金利用者の方に対してあしなが育英会の協力を得て、アンケートを行いました。あしなが育英会は、病気や災害・自死などで親を亡くした子どもや親が重度の障害（1～3級）を負い働くことができない家庭の子どもの進学の支援や遺児の小学生、中学生に対する「心のケア」、学生寮「心塾」の運営、海外研修による人材育成を長年、行っています。また、遺児家庭の生活実態調査を行い、遺児家庭とその子どもたちの生活環境の改善を社会に訴える活動に取り組み、民間の奨学金制度として重要な役割を果たしています。

アンケートでは、奨学金を利用する子どもやその保護者がどのようにして学校や奨学金などの情報を得たのか、高校進学のために必要な情報や支援は何かを把握しました。また、子どもと保護者の生の声から、3つの課題を提起し、提言します。

子どもたちが置かれた生活環境により成長・発達が阻害されないよう、福祉関係機関、教育関係機関をはじめとする子どもと関わるすべての機関が協力して子どもの生活課題を複合的にとらえ、社会全体で解決していくために、制度・政策を整えていくことを願います。

社会福祉法人  
東京都社会福祉協議会  
事務局長 野村 寛

## 目 次

第1章 調査実施のあらまし	1
(1) 調査目的	2
(2) 調査時期	2
(3) 調査対象並びに回答状況	2
(4) 実施方法	2
(5) 調査項目	2
第2章 調査結果	5
1 奨学金利用者に対するアンケート	
(1) 回答者の基本情報	6
1) 高校生の学年および性別、居住地、世帯構成等	6
2) 通学する高校	8
(2) 高校受験について	9
1) 高校受験のための勉強方法	9
2) 受験した高校の数	10
3) 現在、通っている高校と「中3の初めの頃、一番行きたかった学校」 と「受験した学校の中で一番行きたかった学校」	11
4) 一番行きたい学校を選んだ理由	14
5) 高校に進学しない、できないと思った時期の有無と 進学をしようと決めた時期	16
6) 高校進学を考える時、心配だったこと	17
7) 進路を考える上で「相談したり、アドバイスをくれたりした人」と 最終的に「高校進学できる・進学しようと思ったきっかけ」	19
(3) 高校卒業後のことについて	24
1) 高校卒業後の進路—— 「希望する進路」と「実際に可能性が高い進路」	24
(4) 奨学金の返済について	29
1) 奨学金の返済	29

## 2 奨学金利用者の保護者に対するアンケート

(1) 回答者の基本情報	34
1) 回答者の性別、居住地、子どもの人数	34
2) 奨学金を受けている子どもの学年、性別、通学している高校の種類	35
3) 収入と仕事	37
(2) 中学卒業後の進路選択時の状況について	41
1) 高校受験のための勉強方法	42
2) 子どもの中学卒業後の進路を考える上で、困っていたこと (自由記述)	43
3) 進路を考える時の必要な情報の入手	50
4) 進路を考える時の必要な情報の入手先	52
5) 奨学金制度などや教育費助成・貸付制度の「認知度」と「利用状況」 .....	58
6) どのような情報や相談先があったらよいと思うか (自由記述)	61
(3) 高校卒業後のことについて	64
1) 子どもの高校卒業後の進路—— 「希望する進路」と「実際に可能性が高い進路	64
(4) 奨学金の返済について	70
1) 奨学金の返済	70

## 第3章 課題提起と提言 73

### 資料編

1 高校進学のために必要な情報と支援についてのアンケート 【高校生用】(実数記入)	78
2 高校進学のために必要な情報と支援についてのアンケート 【保護者用】(実数記入)	83
○ 低所得世帯の子どもための情報支援構築プロジェクト 委員名簿	90



# 第 1 章

## 調査実施のあらまし

## 第1章 調査実施のあらまし

(1) 調査目的 「貧困の再生産」を断ち切る上で、義務教育が終了する中学3年次の進路選択は大きな節目である。低所得世帯の子どもたちが、どのような情報や支援を得て、進路を選択しているかについて把握するとともに、進路選択時、どのような情報提供や支援の仕組みが求められているかを明らかにする。

(2) 調査時期 平成22年12月20日～平成23年1月11日

## (3) 調査対象ならびに回答状況

調査対象	対象数	回答数	回答率
1 奨学金利用者（高校生）	188名	79名	42.0%
2 奨学金利用者の保護者	188名	80名	42.5%

\* 調査実施にあたっては、あしなが育英会の全面協力を得て、現在、都内に在住するあしなが育英会の奨学金利用中の高校生と保護者世帯を対象とした。

(4) 実施方法 郵送による送付、郵送による回収  
 ・高校生と保護者それぞれが回答  
 調査票配布にあたっては、世帯ごとに配布したが、回収は郵送により高校生と保護者別々に返送できる形式とした。したがって、回答者の高校生と保護者のすべてが同一世帯とは限らない。

(5) 調査項目 《奨学金利用者（高校生）アンケート》  
 ①基礎情報（住まい、性別、学年、いっしょに暮らす人、現在通っている高校）、②高校受験のための勉強方法、③希望した高校の種別、④高校の選択理由、⑤進学しない、できないと思った時期の有無、⑥進学を決意した時期、きっかけ、理由⑦進学するうえでの心配、悩み事、⑧相談相手、⑨高校卒業後の進路希望、⑩奨学金の返済

《奨学金利用者の保護者アンケート》

- ①基礎情報（住まい、性別、子どもの人数、月収、就労形態、奨学金を受けている子どもの学年・性別・通学校）
- ②子どもの進路を考えるうえで困っていたこと、③子どもの高校受験時の勉強方法、④進路を考える上で必要な情報とその入手方法、入手先、⑤奨学金制度、教育費助成、貸付制度の認知度、⑥利用できなかった制度の有無と理由、⑦相談先や支援の仕組みへの希望・要望、⑧子どもの高校卒業後の進路に関する親の意向、⑨奨学金の返済





## 第2章

### 1 奨学金利用者(高校生)に対する アンケート

## 第2章 調査結果

### 1 奨学金利用者（高校生）アンケート 調査結果

\* 調査結果の分析においては、原則として無回答を含む数値をもとに集計を行っています。

#### (1) 回答者の基本情報

##### 1) 高校生の学年および性別、居住地、世帯構成等

**学年は高1が44.3%、高3が29.1%、高2が24.1%。性別は、男57.0%、女40.5%。住まいは、23区内が51.9%、23区外が46.8%。世帯構成は、母子世帯が69.6%と最も多く、次いで両親世帯が21.5%となっている。世帯の人数は、3人世帯が36.7%で最も多く、4人世帯(27.8%)、2人世帯(17.7%)が続く。**

- 学年は、高1が最も多く35人(44.3%)、ついで高3が23人(29.1%)、高2が19人(24.1%)となっています。(図1)
- 性別は、男性45人(57.0%)、女性32人(40.5%)。(図2)
- 住まいは、23区内が41人(51.9%)、23区外が37人(46.8%)。(図3)
- 世帯構成は図4に示すとおり、母子世帯が55人(69.6%)（うち、11人は祖父母と同居）と最も多く、次いで両親世帯17人(21.5%)（うち、5人は祖父母と同居）、父子世帯7人(8.9%)（うち、祖父母と同居は1人）という結果でした。(図4)
- また、世帯人数は3人世帯が29人(36.7%)と最も多く、4人世帯が22人(27.8%)、2人世帯が14人(17.7%)となっています。(図5)

図1 学年 N=79 (%)

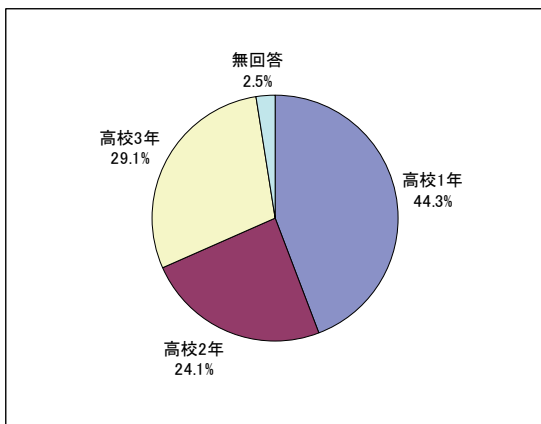


図2 性別 N=79 (%)

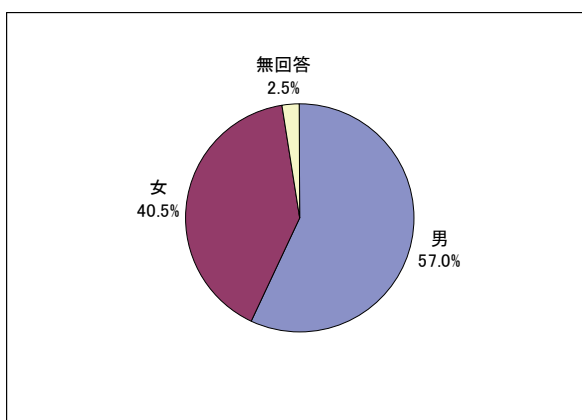


図3 住まい N=79 (%)

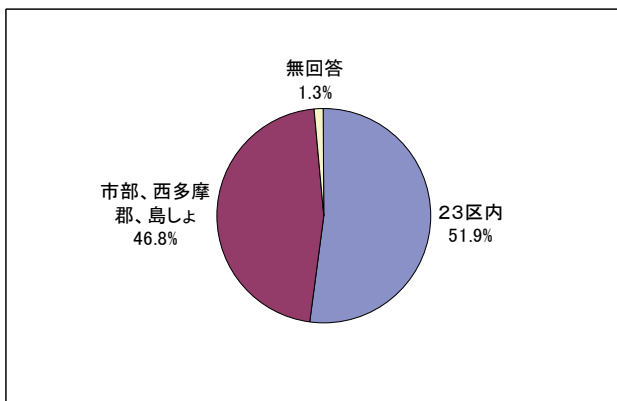


図4 世帯構成 N=79 (%)

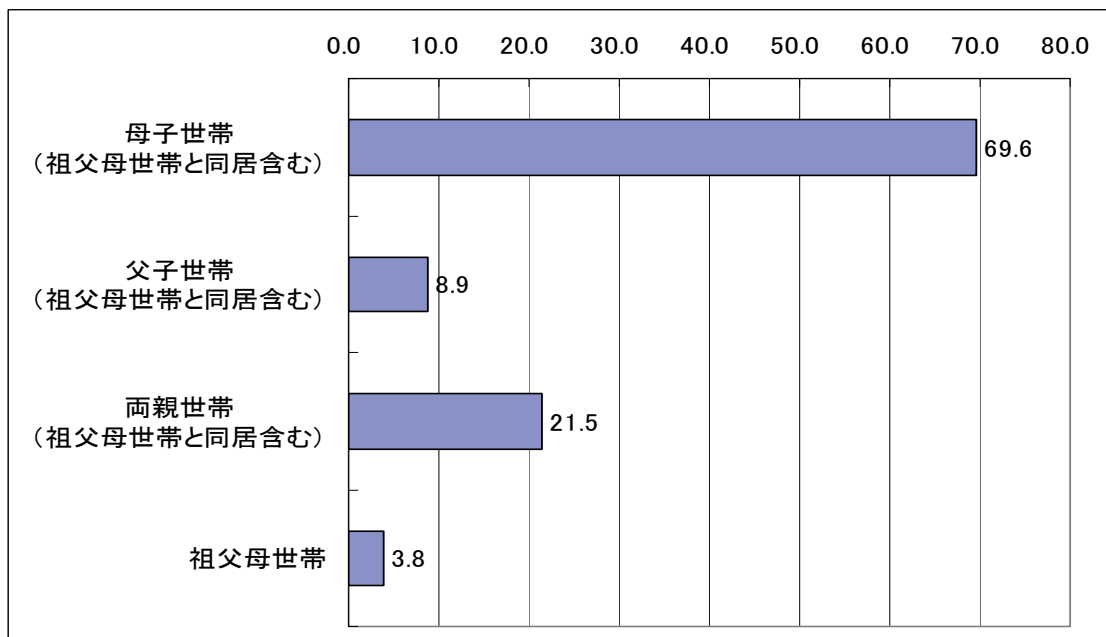
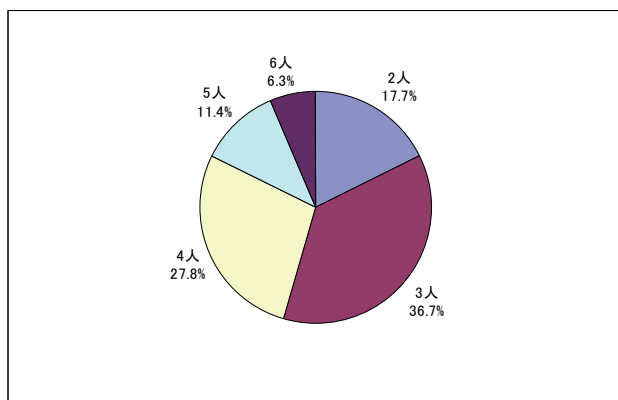


図5 世帯の人数 N=79 (%)



2) 通学する高校

- 現在通っている高校は表1のとおりです。全日制高校（普通科）が65人(82.3%)で、そのうち、国公立高校が41.8%、私立高校が38.0%という結果でした。全日制高校（専門学科）は2人(2.5%)、全日制高校（総合学科）は3人(3.8%)で、全日制高校全体では、70人(88.6%)でした。
- 定時制高校に通う人は3人(3.8%)、通信制高校に通う人は2人(2.5%)でした。
- 私立高校へ通う人は36人で、全体の45.6%であり、ほぼ半数でした。（表1）

表1 現在、通っている学校 N=79（上段：人、下段：%）

単位 上段：人 下段：%	合計	学校の種類										
		全日制高校（普通科）	全日制高校（専門学科）	全日制高校（総合学科）	高等専門学校	定時制高校夜間部	定時制高校夜間部以外	通信制高校と高等専門学校	通信制高校とサポート校	専修学校（高等課程）	その他	無回答
全体	79 100.0%	65 82.3%	2 2.5%	3 3.8%	2 2.5%	2 2.5%	1 1.3%	1 1.3%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.5%
通っている学校	国公立	40 50.6%	33 41.8%	1 1.3%	3 3.8%	1 1.3%	1 1.3%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	私立	36 45.6%	30 38.0%	1 1.3%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	1 1.3%	0 0.0%	2 2.5%
	無回答	3 3.8%	2 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

## (2) 高校受験について

高校受験にあたり、受験勉強や進路選択面で、世帯の状況が子どもたちへどのような影響を及ぼしているのかを把握しました。

### 1) 高校受験のための勉強方法

**高校受験時の勉強方法は、「塾に通った」が 59.5%。また、塾や通信教育、学校の補習などを利用をしなかった人が 13.9%。**

- 高校受験時の勉強方法をたずねたところ、「塾に通った」が 47 人 (59.5%)、「通信教育を利用した」「学校で行われている補習等を利用した」がそれぞれ 10 人 (12.7%)、「家庭教師に習った」が 6 人 (7.6%) でした。また、以上のような塾や通信教育、学校の補習などを利用をしなかった人は、11 人 (13.9%) という結果でした。(表 2) (図 6)
- 保護者アンケートでも、同様の質問をしており、その結果は、「塾に通った」が 62.5%。また、塾や通信教育、学校の補習などを利用をしなかった人が 12.5% という結果でした。
- 文部科学省が実施した平成 20 年度「子どもの学習費調査」によると公立中学に通う 3 年生で、学習塾へ支出があった人の割合は 83.4% (全国平均) であり、本調査との差が顕著にみられます。

(参考リンク) 文部科学省「子どもの学習費調査」学年(年齢)別、所在市町村の人口規模(学科)別の学習費支出状況

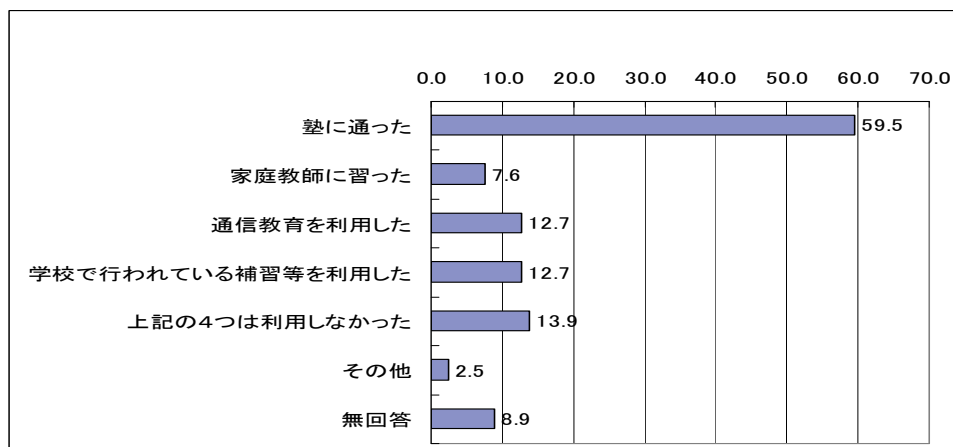
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001061593>

**表 2 高校受験時の勉強方法**

**N=79 (人、%)**

No.	高校受験時の勉強方法	n	%
1	塾に通った	47	59.5
2	家庭教師に習った	6	7.6
3	通信教育を利用した	10	12.7
4	学校で行われている補習等を利用した	10	12.7
5	1～4は利用しなかった	11	13.9
6	その他	2	2.5
	無回答	7	8.9
	全体	79	100.0

図6 高校受験時の勉強方法 複数回答、N=79 (%)

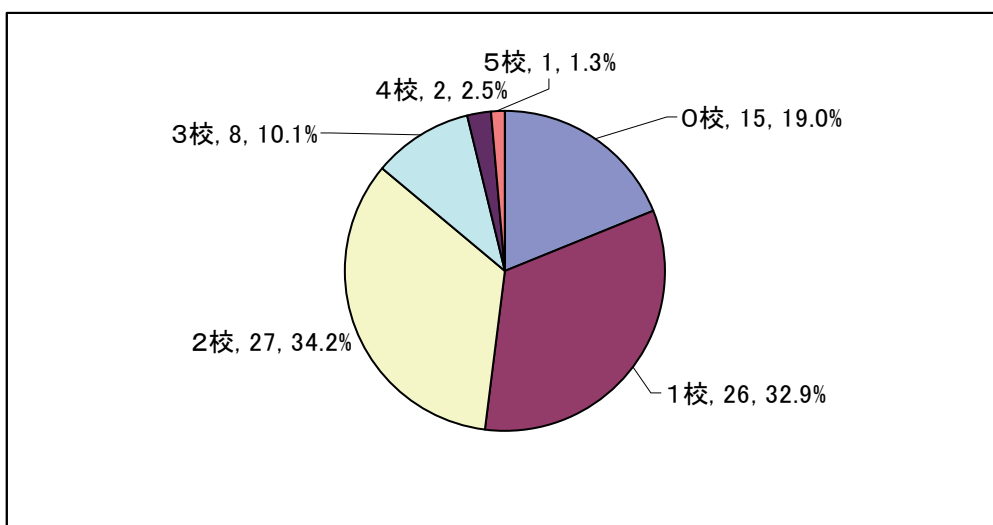


## 2) 受験した高校の数

受験した高校の数は、平均 1.8 校であり、(塾などが発表する都内平均が 3 校～6 校と言われていることと比較すると)受験校数は少ないと言える。

- 受験した高校の数は、1 校が 26 人で最も多く、続いて 2 校が 27 人、0 校（中高一貫のため）が 15 人、3 校が 8 人、4 校が 2 人、5 校が 1 人で、平均は、1.8 校でした。塾などが発表する都内平均の受験校数が、3 校から 6 校と言われていることと比較すると、受験校数は少ないと言えます。(図 7)
- 平均値は、中高一貫校のため受験しなかった者、無回答だった者を除いた 64 人を分母として算出しました。(図 7)

図7 受験した高校の数 N=79（人、%）



※0校は中高一貫校をさす。

平均	1.8
最大値	5.0
最小値	0.0

- 3) 現在、通っている高校と「中3の初めの頃、一番行きたかった学校」と「受験した学校の中で一番行きたかった学校」

64.6%が現在通っている学校が受験した学校の中で「いちばん行きたかった学校」と回答している。

一方、「中3になった初めの頃、一番行きたかった学校の種類」をたずねると、全日制高校、定時制（夜間部以外）、高等専門学校を選んでき、回答者全員が昼間の学校を希望している。また、「受験した学校の中で一番行きたかった学校の種類」でも、同様に昼間の学校を希望している。

- 現在、通っている高校が、「第1希望の学校であるかどうか」、「中3になった初めの頃、一番行きたかった学校の種類」、「実際に受験した高校の中で、一番行きたかった学校の種類」をたずねました。
- 現在、通っている高校が、「第1希望」と回答した人は51人（64.6%）でした（図8）。また、第1希望の学校に通っている回答した子どもが現在、通っている高校は図9・表3のとおりでした。



- 「中3になった初めの頃、一番行きたかった学校の種類」としては、全日制高校、定時制（夜間部以外）、高等専門学校を選んでおり、回答者全員が昼間の学校を希望しています。また、「受験した学校の中で一番行きたかった学校の種類」でも、同様の傾向で昼間の学校を希望しています。（表4）
- 「中3の初めの頃、一番行きたかった学校」と「受験した学校の中で一番行きたかった学校」についてクロス集計を行うと、当初希望が全日制高校（普通科）だった子どもたちの一部が、受験時には、全日制高校（専門学科）、全日制高校（総合学科）、定時制高校（夜間部以外）や通信制サポート校へ志望を変えていることがうかがえます。（表5）

図8 現在通っている高校 N=79 (%)

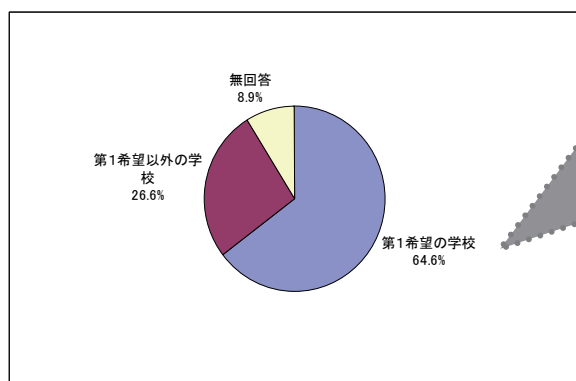


図9 第一希望の高校へ通う子ども N=51 (%)

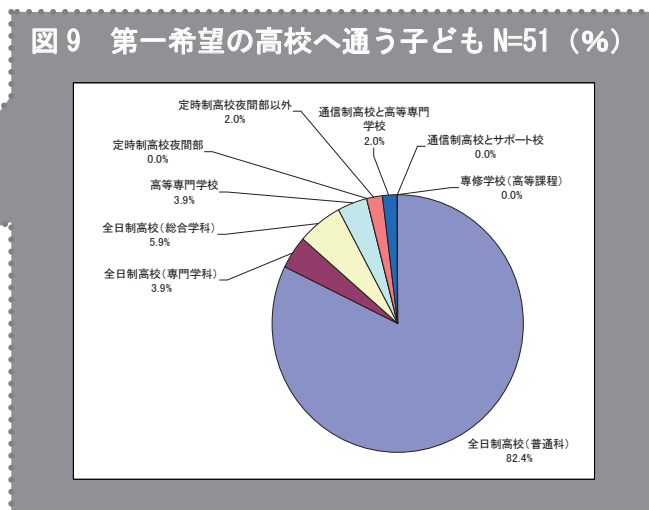


表3 現在通っている学校（第1希望の学校に通う子ども）

N=51（上段：人、下段：%）

単位 上段：人 下段：%	合計	学校の種類											無回答
		全日制高校(普通科)	全日制高校(専門学科)	全日制高校(総合学科)	高等専門学校	定時制高校夜間部	定時制高校夜間部以外	通信制高校と高等専門学校	通信制高校とサポート校	専修学校(高等課程)	その他		
全体	51 100.0%	42 82.4%	2 3.9%	3 5.9%	2 3.9%	0 0.0%	1 2.0%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
通っている学校	国公立	32 62.7%	26 51.0%	1 2.0%	3 5.9%	1 2.0%	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	私立	17 33.3%	14 27.5%	1 2.0%	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	2 3.9%	2 3.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

表4 「中3になった初めの頃、一番行きたかった学校」

N=79（上段：人、下段：％）

単位 上段：人 下段：％	合計	「中3になった初めの頃、一番行きたかった学校」の種類												
		全日制高校（普通科）	全日制高校（専門学科）	全日制高校（総合学科）	高等専門学校	定時制高校夜間部	定時制高校夜間部以外	通信制高校と高等専門学校	通信制高校とサポート校	専修学校（高等課程）	その他	無回答		
全体	79 100.0%	59 74.7%	3 3.8%	3 3.8%	2 2.5%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.8%	8 10.1%	
中3になった初めの頃に「一番行きたかった学校」	国公立	61 77.2%	50 63.3%	3 3.8%	3 3.8%	2 2.5%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.5%	0 0.0%
	私立	8 10.1%	8 10.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	10 12.7%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	8 10.1%

表5 （クロス集計）「中3になった初めの頃、一番行きたかった学校」と「受験した学校の中で一番行きたかった高校」

N=79（上段：人、下段：％）

単位 上段：人 下段：％	合計	受験した学校の中で一番行きたかった学校の種類											
		全日制高校（普通科）	全日制高校（専門学科）	全日制高校（総合学科）	高等専門学校	定時制高校夜間部	定時制高校夜間部以外	通信制高校と高等専門学校	通信制高校とサポート校	専修学校（高等課程）	その他	無回答	
全体	79 100.0%	54 68.4%	4 5.1%	4 5.1%	2 2.5%	0 0.0%	2 2.5%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	11 13.9%	
「一番行きたかった学校」の種類	全日制高校（普通科）	59 74.7%	52 65.8%	1 1.3%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.8%
	全日制高校（専門学科）	3 3.8%	0 0.0%	2 2.5%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	全日制高校（総合学科）	3 3.8%	0 0.0%	1 1.3%	2 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	高等専門学校	2 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	定時制高校夜間部	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	定時制高校夜間部以外	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	通信制高校と高等専門学校	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	通信制高校とサポート校	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	専修学校（高等課程）	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	その他	3 3.8%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	1 1.3%
	無回答	8 10.1%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 8.9%

## 4) 一番行きたい学校を選んだ理由

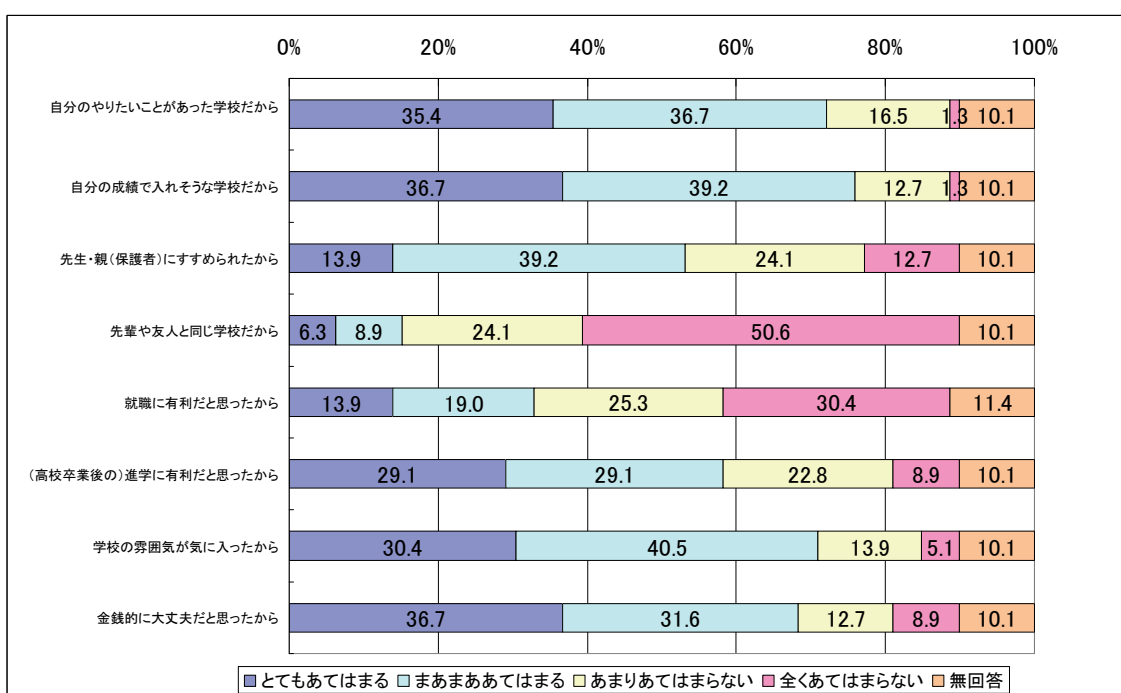
行きたい学校を選んだ理由の「とてもあてはまる」ものとして、最も多かったものは、「自分の成績」(36.7%)と「金銭的に大丈夫と思ったから」(36.7%)。「まあまああてはまる」を含めると、最も理由としてあげた人が多かったものは、「自分の成績(75.9%)」、「自分のやりたいことがある学校(72.1%)」、「学校の雰囲気(70.9%)」、「金銭的に大丈夫(68.3%)」となっている。

- 実際に「受験した学校」の中で「一番行きたかった学校」を選んだ理由を把握するため、理由となりうる事項を示しそれぞれについて「とてもあてはまる」、「まあまああてはまる」、「あまりあてはまらない」、「全くあてはまらない」の4段階で自分の気持ちに近いものをたずねました。
- 「とてもあてはまる」ものとして最も多かったのは、「自分の成績」や「金銭的に大丈夫と思ったから」で、29人(36.7%)の人があげています。(表6)(図10)
- 「まあまああてはまる」を含めると、最も多かったのは、「自分の成績60人(75.9%)」、「自分のやりたいことがある学校57人(72.1%)」、「学校の雰囲気56人(70.9%)」、「金銭的に大丈夫54人(68.3%)」となっています。一般的には親の悩みと考えられている「金銭面」を7割近い子どもが選択理由としてあげています。(表6)(図10)
- 一方、「先輩や友人と同じ学校だから」「就職に有利だから」については、半数以上の人々が、「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」と回答しています。また、46人(58.2%)の人が「(高校卒業後の)進学に有利だから」を「とてもあてはまる」「まあまああてはまる」理由としてあげており、就職よりも高校卒業後の進学の志向が高いことがうかがえます。(表6)(図10)

表6 受験する高校を選んだ理由 N=79（上段：人、下段：％）

	合計	受験する学校を選んだ理由					無回答
		とてもあてはまる	まあまああてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない		
1 自分のやりたいこと（勉強のカリキュラム、クラブ活動など）があった学校だったから	79 100.0	28 35.4%	29 36.7%	13 16.5%	1 1.3%	8 10.1%	
2 自分の成績で入れそうな学校だったから	79 100.0	29 36.7%	31 39.2%	10 12.7%	1 1.3%	8 10.1%	
3 先生・親（保護者）にすすめられたから	79 100.0	11 13.9%	31 39.2%	19 24.1%	10 12.7%	8 10.1%	
4 先輩や友人と同じ学校だから	79 100.0	5 6.3%	7 8.9%	19 24.1%	40 50.6%	8 10.1%	
5 就職に有利だと思ったから	79 100.0	11 13.9%	15 19.0%	20 25.3%	24 30.4%	9 11.4%	
6 （高校卒業後の）進学に有利だと思ったから	79 100.0	23 29.1%	23 29.1%	18 22.8%	7 8.9%	8 10.1%	
7 学校の雰囲気が入ったから	79 100.0	24 30.4%	32 40.5%	11 13.9%	4 5.1%	8 10.1%	
8 金銭的に大丈夫だと思ったから	79 100.0	29 36.7%	25 31.6%	10 12.7%	7 8.9%	8 10.1%	

図10 「受験する学校の中で一番行きたかった学校」を選んだ理由 N=79（％）



5) 高校に進学しない、できないと思った時期の有無と進学をしようと決めた時期

中学生の時に、「高校に進学しない、あるいは進学できない」と思った時期があったかの問いに対して、「あった」と回答した人は、21.5%であった。さらに、「高校に進学しない、あるいは進学できない」と思った時期があった人に対して、「進学を決意した時期」をたずねたところ、中3の時が11人（64.6%）であったが、そのうち、4人は10月以降に最終的に決めたと回答している。

- 中学生の時に「高校に進学しない、あるいは進学できない」と思った時期があったかどうかをたずねました。また「あった」と回答した人に対して、進学を決意した時期をたずねました。
- 「進学しない、あるいは進学できない」と思った時期が「あった」と回答した人は17人(21.5%)でした。大学全入時代といわれる昨今において、高校進学は当たり前のことと考えられがちですが、本調査では5人に1人が「進学しない、あるいは進学できない」と思った時期があったと回答しています。(図11)(表7)
- さらに「進学しない、あるいは進学できない」と思った時期があった人に対して、「進学しようと決めた時期」をたずねました。17人中11人が中3に進級してから、高校進学を決めたと回答しています。(図12)(表8)

図11 中学生のときに、「高校に進学しない、あるいは進学できない」と思ったかどうか N=79 (%)

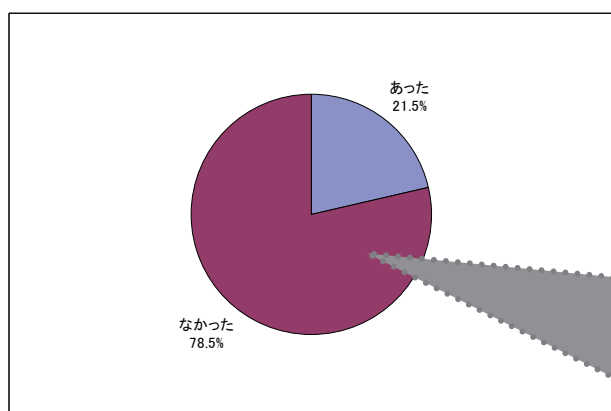


図12 高校進学をしようと決めた時期 N=17 (%)

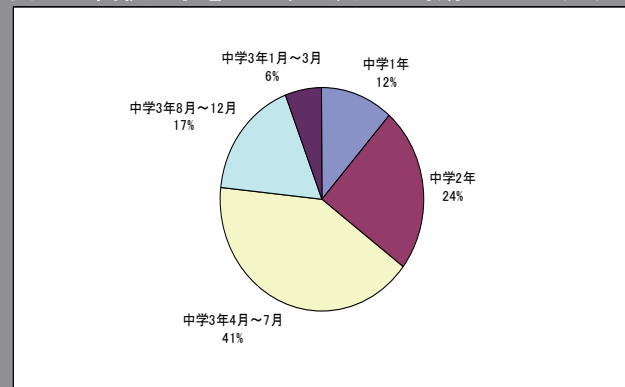


表7 中学生のときに、「高校に進学しない、あるいは進学できない」と思ったかどうか N=79（人、%）

No.	カテゴリー名	n	%
1	あった	17	21.5
2	なかった	62	78.5
	全体	79	100.0

表8 高校進学をしようと決めた時期 N=17（人、%）

No.	カテゴリー名	n	%
1	中学1年	2	11.8
2	中学2年	4	23.6
3	中学3年4月～7月	7	41.3
4	中学3年8月～12月	3	17.4
5	中学3年1月～3月	1	5.9
	全体	17	100.0

6) 高校進学を考える時、心配だったこと

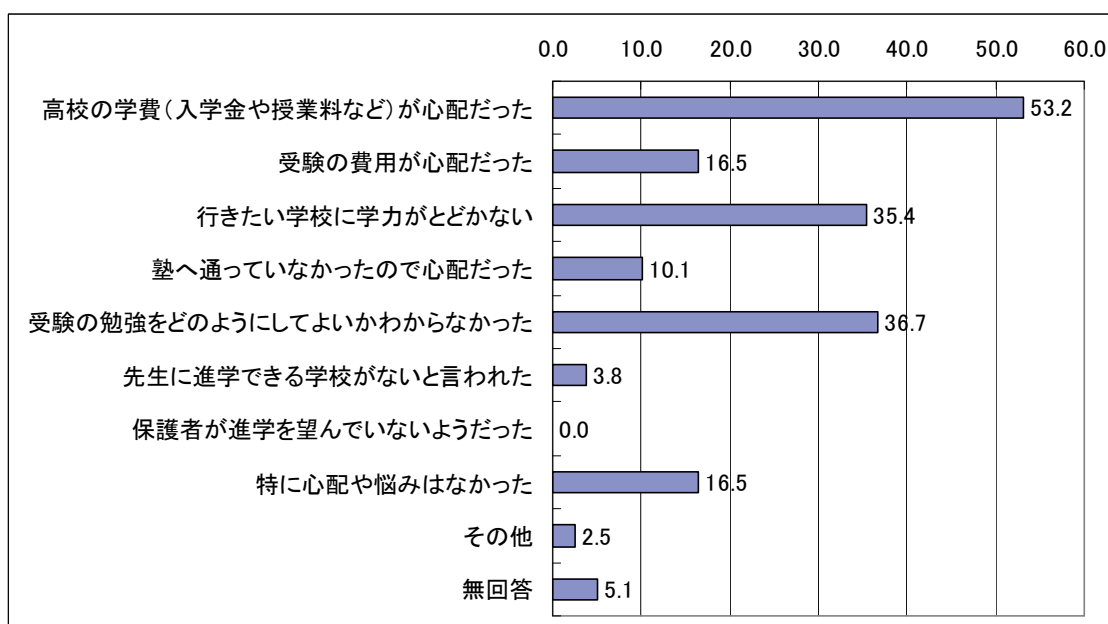
「高校進学を考える時、心配したり悩んだりしたこと」としては、53.2%の人が「高校の学費（入学金や授業料など）が心配」をあげており、最も多かった。「受験勉強の方法がわからない」（36.7%）、「行きたい学校に学力がとどかない」（35.4%）が続く。

- 「高校進学を考えるとき、心配したり悩んだりしたこと」を複数回答でたずねました。
- 半数以上の42人（53.2%）が「高校の学費（入学金や授業料など）が心配」をあげており、最も多い結果でした。次いで「受験勉強の方法がわからない」29人（36.7%）、「行きたい学校に学力がとどかない」28人（35.4%）という結果でした。（表9）（図13）
- 14ページの4）「一番行きたい学校を選んだ理由」で7割近い人が、「金銭的に大丈夫だから」をあげていることから、子どもたちに、学費のことが、強い影響を及ぼしていることが分かります。

表9 高校進学を考える時、心配したり悩んだりしたこと  
複数回答、N=79（人、%）

No.	カテゴリー名	n	%
1	高校の学費（入学金や授業料など）が心配だった	42	53.2
2	受験の費用が心配だった	13	16.5
3	行きたい学校に学力がとどかない	28	35.4
4	塾へ通っていなかったのが心配だった	8	10.1
5	受験の勉強をどのようにしてよいかわからなかった	29	36.7
6	先生に進学できる学校がないと言われた	3	3.8
7	保護者が進学を望んでいないようだった	0	0.0
8	特に心配や悩みはなかった	13	16.5
9	その他	2	2.5
	無回答	4	5.1
	全体	79	100.0

図13 高校進学を考える時、心配したり悩んだりしたこと  
複数回答、N=79（%）



- 7) 進路を考える上で「相談したり、アドバイスをくれたりした人」と最終的に「高校進学できる・進学しようと思ったきっかけ」

相談したり、アドバイスをくれたりした人は、「親（保護者）」（67.1%）、「中学校の先生」（64.6%）、「塾や家庭教師の先生（51.9%）」の順となっている。

「あなたが、最終的に高校進学できる・進学しよう」と思ったきっかけや理由（自由記述）では、「周りの人からのアドバイス」により、励まされ進学へ向かった声が寄せられ、身近な人の後押しが進学に対し前向きになるきっかけとなっていることがうかがえた。また、「将来への希望、学校への期待」といった積極的な意見が多く、子どもたちの希望を支えることの重要性がうかがえた。

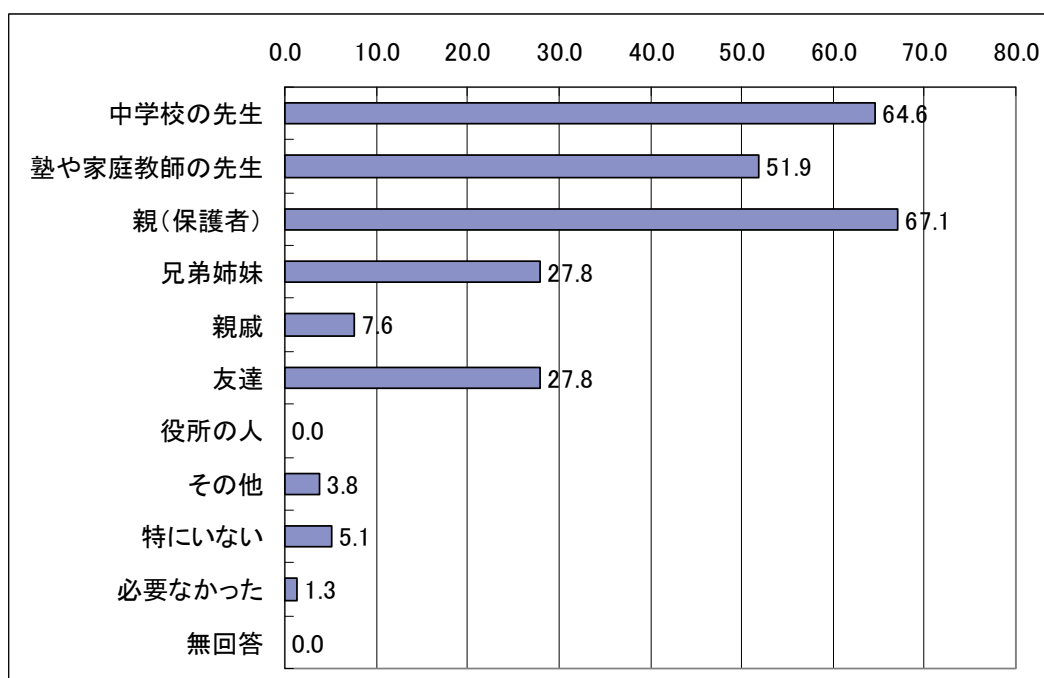
- 中学生のときに高校進学するにあたって、あなたが相談したり、アドバイスをくれたりした人を複数回答でたずねました。
- 最も回答が多かったのが、「親（保護者）」53人（67.1%）であり、「中学校の先生」51人（64.6%）、「塾や家庭教師の先生」41人（51.9%）の順となっています。（表10）（図14）

表10 相談したり、アドバイスをくれたりした人  
複数回答、N=79（人、%）

No.	相談したり、アドバイスをくれたりした人	n	%
1	中学校の先生	51	64.6
2	塾や家庭教師の先生	41	51.9
3	親（保護者）	53	67.1
4	兄弟姉妹	22	27.8
5	親戚	6	7.6
6	友達	22	27.8
7	役所の人	0	0.0
8	その他	3	3.8
9	特にいない	4	5.1
10	必要なかった	1	1.3
	無回答	0	0.0
	全体	79	100.0



図14 相談したり、アドバイスをくれたりした人  
複数回答、N=79 (%)



- また、「あなたが、最終的に高校進学できる・進学しよう」と思ったきっかけや理由を自由記述でたずねました。
- 「当然のことと考えていた」という意見もありましたが、「将来への希望、学校への期待」といった積極的な意見が最も多くなっています。「将来への備え」といった意見のほか、「他の人からのアドバイス」により、励まされ進学へ向かった声も寄せられており、身近な人の声が進学に前向きになるきっかけとなった例が少なからずあります。
- また、「学費が調達できる見通しがたった」といった学費面の条件が整ったという理由をあげる声も少なくなく、「一番行きたい学校を選んだ理由」(P. 14)、「高校進学を考える時心配だったこと」(P. 17)と同じように「学費の心配」が大きい様子が浮き彫りとなりました。

高校進学できる・進学しようと思ったきっかけ（高校生）

（当然のこと、特になし）

- 特になし。高校は絶対行きたいと思っていた。
- あたりまえのように。
- 高校進学気持ちは常に持っていた。特にきっかけなどはない。
- 高校は皆が行く所だと思ったから。高校、大学を卒業しないと就職が困難だと思ったから。

（将来または学校への希望があるから）

- 高専という学校を見つけた時、ここなら自分のやりたいことができると思った。
- やっぱり高校の文化祭とかに行ったときに、自分も来年そこに居たい！！って強く思ったから。あと、部活動とか中学以上に熱中したかったから。
- 先生に自分の将来について聞かれたとき、自分の中で具体的なことがなく、改めて真剣に考えたとき将来の夢ができて、全力でがんばって進学しようと思いました。
- 野球をやりたいかった。
- 将来の夢があるから。
- 部活があったから。
- 高校へ行って新しい友達や、大学に行こうとしているので、大学進学に力を入れていて、部活も活発だから。
- 高校（行きたい学校）に受験して将来の夢をかなえたいと思ったから。
- 大学院や大学での学習の基礎をつくるため。
- 中学で学問から距離を置くことは惜しいと思ったため。
- 推薦入試で進学しようと考えていて、自分の内申が進学先の基準に満たしていたから。また、通学も便利であるし、私立の大学附属校ということに魅力を感じた。
- 将来の自分のため。
- 新しく高校から入ってくる人達と友達になりたかった。友達を増やすことで、あとの人生を有意義なものにしようと思ったから。利益とかではない本当の友達を作りたかったから。大学へ進むには高校に進まなければいけないから。でも結局は高校に行きたかったから。
- 勉強したかったから。
- 夢を叶えるために大学に進学するため。
- 大学へ入学して、やりたい事があったため。
- 行きたい専門学校があり、その付属（内部）の学校が今通っている高校だったから。
- 最終的に大学へいきたいから（大学の教育学科へいきたいから）
- 将来やりたい職業につきたいから。
- 将来やりたい事があったから。

高校進学できる・進学しようと思ったきっかけ（高校生）

- 大学進学を考えていたので。
- 高校でいろいろなことを学んで、立派な社会人になって、親孝行しようと思ったから。周りのみんなよりがんばろうとやる気になれたから。
- 高校の部活の練習会にいて、そこの先生のいる高校にいきたかったから。
- 高校で勉強したかったから。
- 高校卒業後、大学に進学するという目標があったから。
- 大学に進学したいから。安定した仕事に就きたいから。

**（将来への不安から）**

- 中卒では将来就職に希望が持てないから。
- 就職はまだ早いと思ったから。高校に行っていないと実質、将来不利な世の中らしいから。
- 高校卒業後に、就職に有利だったから。
- 今の時代、高卒じゃないと就職ができないので高校だけは卒業したいと思ったからです。
- 将来の事を考えて。
- 高校を卒業しないと先が見えなかったから。
- 高校へ進学しないと、大学への進学や就職に不利になるから。
- 将来の為に当然必要な事だと思ったため。
- 就職に有利だから。
- 中卒で就職したくないし、きちんとした所に就職したかったから。

**（周りの人からアドバイスがあったから）**

- 兄たちや母が何とかがんばるから、進学してもいいと言ってくれたので。私立を選んだのは東京都の育英奨学金とあしながの両方を使えると思い、中学校を通して申し込みをしたのに、入学後に育英の方をかりられなくなり今も困っている。
- 持病をもっていて、学校を休みがちで出席日数が足りなかったのだが、校長先生が進学を認めてくれたので進学できることになった。
- 姉に進学の大切さを教えられたから。姉は高卒なので、大学に進むのがいいと言われました。
- 担任の先生が、受験可能な学校や、就学支援の情報を集めて教えてくれた。私立受験をしる親を説得してくれた。
- 保護者に薦められたこと。また、先生に薦められたこと。先生のご指導もあったこと。
- 親が行くように言ってたから。

高校進学できる・進学しようと思ったきっかけ（高校生）

- 親が行きなさいと言ってくれた。
- 先生と親で相談して、金銭的にも学力的にも安心な高校を受けてみなと言われたこと。
- 母が、自分のやりたい道があるなら、やっていきなさいと、言ってくれた事や、自分で、やりたい道が決まってきたので。
- 両親が都立か私立か迷っていた僕に自分の好きな方を選びなさいと言ってくれたことです。

**（学費の目途がたったから）**

- 親の仕事が見つかった為。
- アルバイトする事を決めたから。
- 国立の大学に進学したくて、都立無償化になったので、都立に入ればあまりお金をかけずに大学進学ができると思ったから。
- あしなが育英会の奨学金を知ったから。
- 金銭的に進学できたので。
- 都立なら学費がかからない。あしながさんがいるから。
- 親があまりお金のことを言わなかったので、高校には最初から進学するつもりだった。学費について心配したのは入学後父に言われたから。
- 国立の大学に進学したくて、都立無償化になったので、都立に入ればあまりお金をかけずに大学進学ができると思ったから。

**（その他）**

- 中卒が嫌だった為。
- 成績がほぼオール5だった。
- 学力が伸びてきたとき。
- 合格しないと考えていた先生達を見返してやろうと思ったこと。
- 模試をやって良い結果だった。
- 成績がまあまあ良かったから。
- 高校の方から声をかけていただきました。
- 中高一貫校だったので、みんなと一緒に進学しようと思いました。
- みんなが行っているから。

### (3) 高校卒業後のことについて

先行調査等においては、進路選択にあたり家計の経済力が影響を及ぼすことが指摘されています。奨学金を利用して高校進学を果たした子どもたちの高校卒業後の進路についての意向を把握しました。

#### 1) 高校卒業後の進路-「希望する進路」と「実際に可能性が高い進路」

**高校卒業後の「希望する進路」は、「4年制以上の国公立大学進学（昼間部）」が38.0%、「4年制以上の私立大学進学（昼間部）」が30.4%。「就職（正規職員）」は、6.3%である。また、「わからない」は2.5%。  
それに対して、「実際に可能性が高い進路」となると「就職（正規職員）」が10.1%に、「わからない」が7.9%に増える。**

- 高校卒業後の進路について「希望する進路」と「実際に可能性が高い進路」の双方についてたずねました。さらに「実際に可能性が高い進路」については、そう思う理由について複数回答でたずねました。
- 高校卒業後の「希望する進路」は、「4年制以上の国公立大学進学（昼間部）」が30人(38.0%)、「4年制以上の私立大学進学（昼間部）」が24人(30.4%)。「就職（正規職員）」は、5人(6.3%)でした。また、「わからない」は2人(2.5%)という結果になりました。(図15)(表11)
- それに対して、「実際に可能性が高い進路」となると、「4年制以上の国公立大学進学（昼間部）」は19人(24.1%)に減り、「就職（正規職員）」が8人(10.1%)に、「わからない」が6人(7.6%)に増えます。(図15)(表11)
- 回答した進路が「実際に可能性が高い」と思う理由についてみると、「学力の点から」35人(44.3%)、「就職に有利」30人(38.0%)、「学費の工面が難しい」18人(22.8%)、「高校卒業後の就職が厳しい」17人(21.5%)となりました(図16)(表12)。

なお、先行調査として、東京大学大学院大学経営・政策研究センターによる「高校生の進路に関する調査」(2005)があります。この調査は全国4000人の高校3年生とその保護者を対象とした調査になっています。その結果によると、高校卒業後の「最も希望している進路」は、「就職」は14.4%。「短大・専門学校への進学」25.1%、「大学への進学」57.3%でした。

(高校生の進路に関する調査 [http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/resource/HSGS1st\\_parent\\_gt.pdf](http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/resource/HSGS1st_parent_gt.pdf))

- 本調査は、国公立と私立をあわせた「4年制大学」への希望が、「希望する進路」では68.4%、「実際に可能性が高い進路」でも、6割の人が希望しています。さらには「短大・専門学校進学」「就職」については、本調査の方が若干少ない結果となっています。（図15）（表11）
- 本調査のみではその理由は十分に検討することはできませんが、長引く不況と就職難の状況から、進学を志向する人が全体的に増えたことは一因と考えられます。

図15 高校卒業後の進路—「希望する進路」と「実際に可能性が高い進路」 N=79 (%)

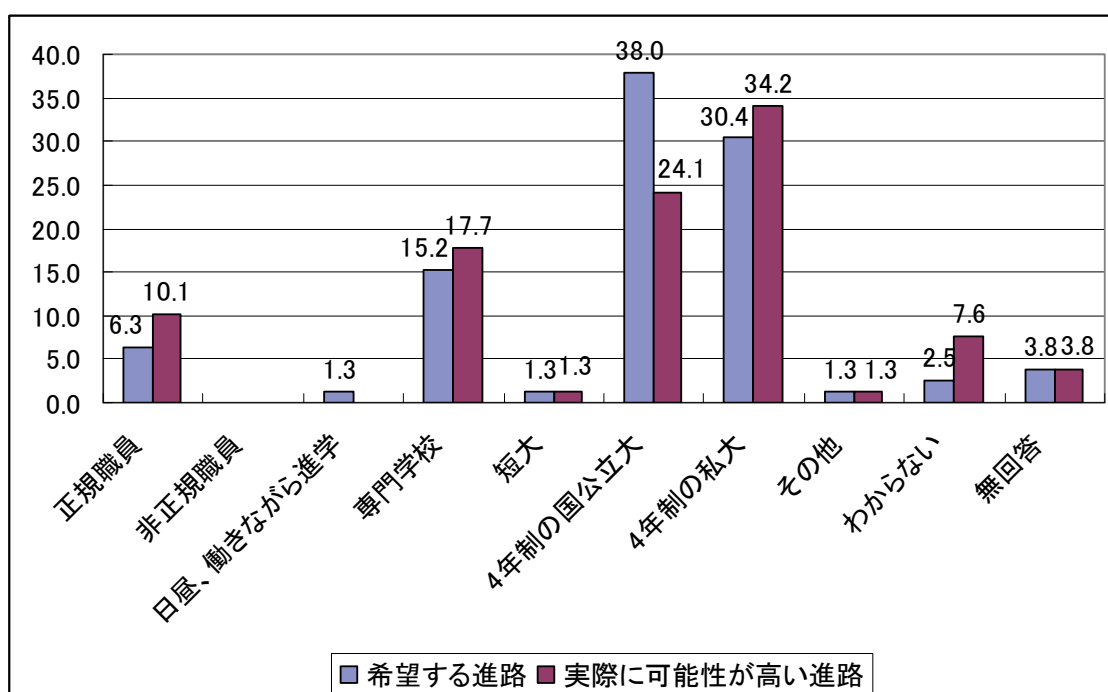


表 11 高校卒業後—「希望する進路」と「実際に可能性が高い進路」  
N=79（上段：人、下段：％）

単位 上段：人 下段：％	合計	実際に可能性が高い進路										
		就職（正 規職員）	就職（非 正規職員 契約・派 遣・アル バイトな ど）	日昼、定 職やアル バイトを 持ちなが ら（夜間 部など へ）進学	専門学校 進学（昼 間部）	短期大学 進学（昼 間部）	4年制以 上の国公 立大学進 学（昼間 部）	4年制以 上の私立 大学進学 （昼間 部）	その他	わからな い	無回答	
全体	79 100.0%	8 10.1%	0 0.0%	0 0.0%	14 17.7%	1 1.3%	19 24.1%	27 34.2%	1 1.3%	6 7.6%	3 3.8%	
希望する 進路	就職（正 規職員）	5 6.3%	4 5.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	
	就職（非 正規）	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	日昼、定 職やアル バイトを 持ちなが	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	専門学校 進学（昼 間部）	12 15.2%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	11 13.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	短期大学 進学（昼 間部）	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	4年制以 上の国公 立大学進 学（昼間 部）	30 38.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	18 22.8%	9 11.4%	0 0.0%	2 2.5%	0 0.0%
	4年制以 上の私立 大学進学 （昼間 部）	24 30.4%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	1 1.3%	18 22.8%	0 0.0%	3 3.8%	0 0.0%
	その他	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%
	わからな い	2 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%
	無回答	3 3.8%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.5%

図16 「実際に可能性が高い」と思われる理由 複数回答、N=79 (%)

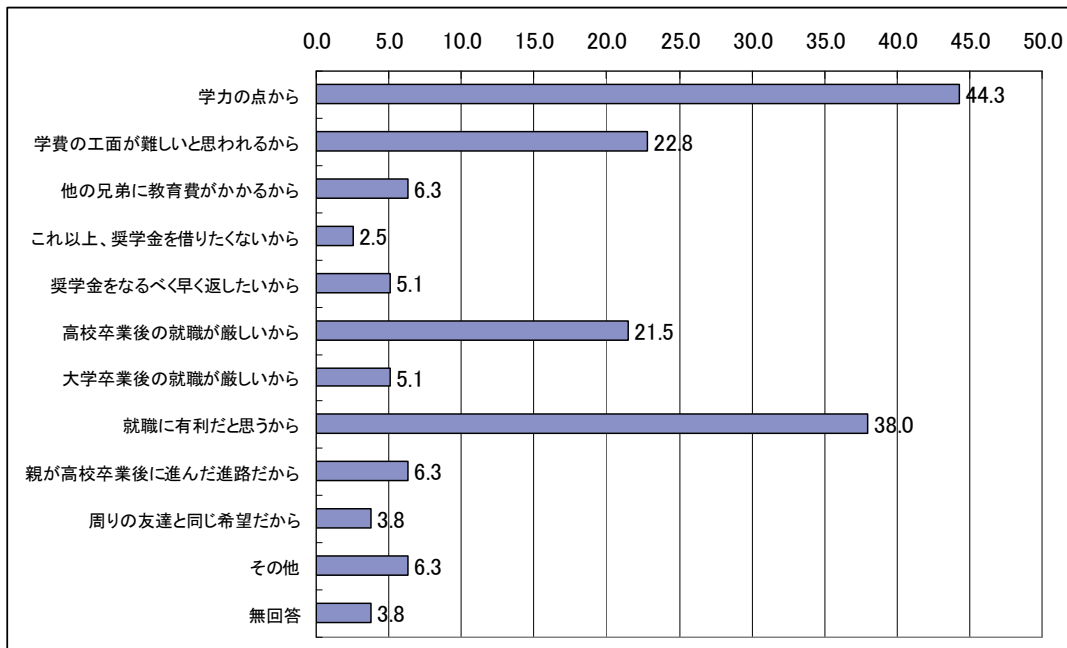




表 12 「実際に可能性が高いと思う進路」と「その理由」

N=79（上段：人、下段：％）

単位 上段：人 下段：％	合計	「実際に可能性が高い」と思う理由											無回答
		学力の点 から	学費の工 面が難し いと思わ れるから	他の兄弟 に教育費 がかかる から	これ以 上、奨学 金を借り たくない から	奨学金を なるべく 早く返し たいから	高校卒業 後の就職 が厳しい から	大学卒業 後の就職 が厳しい から	就職に有 利だと思 うから	親が高校 卒業後に 進んだ進 路だから	周りの友 達と同じ 希望だか ら	その他	
全体	79	35	18	5	2	4	17	4	30	5	3	5	3
	100.0%	44.3%	22.8%	6.3%	2.5%	5.1%	21.5%	5.1%	38.0%	6.3%	3.8%	6.3%	3.8%
実 際 に 可 能 性 が 高 い 進 路	正規職員	8	1	6	2	2	2	1	0	3	0	0	0
		10.1%	1.3%	7.6%	2.5%	2.5%	2.5%	1.3%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	非正規職 員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	日雇、働 きながら 進学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	専門学校	14	6	1	0	0	0	4	0	6	1	0	1
		17.7%	7.6%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%	7.6%	1.3%	0.0%	1.3%
	短大	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	4年制の 国公立大 学	19	8	8	3	0	1	4	2	12	0	1	2
		24.1%	10.1%	10.1%	3.8%	0.0%	1.3%	5.1%	2.5%	15.2%	0.0%	1.3%	2.5%
	4年制の 私大	27	15	0	0	0	0	7	2	9	3	2	2
		34.2%	19.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.9%	2.5%	11.4%	3.8%	2.5%	2.5%
その他	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	1.3%	1.3%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
わからな い	6	3	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	7.6%	3.8%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	
無回答	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
	3.8%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	2.5%	

#### (4) 奨学金の返済について

奨学金の返済についてどのように考えているかをたずねました。

##### 1) 奨学金の返済

**奨学金を返済する人は、「自分」が 69.6%、「自分と親」が 19.0%であり、8 割以上の子どもが、自分自身が将来的に返済していくことを意識している。**

**返済についての考えは「見通しはたっていない」「何とか返済できると思う」が 50.6%、「返済についてはまだ考えていない」が 25.3%と次ぐ。**

- 将来、奨学金を誰が返済する予定かをたずねたところ、「自分」が 55 人(69.6%)、「自分と親」が 15 人(19.0%)であり、8 割以上の子どもが、自分自身が将来的に返済していくことを意識しています。また、「親」が返済は 2 人(2.5%)でした。(図 17)(表 13)
- 保護者アンケートでも同様の質問をしています。その結果は、奨学金を返済する人は、「子ども」が 42.5%、「親と子ども」が 33.8%、「親」17.5%という結果でした。保護者よりも子どもの方が、「子ども(自分)」だけで返していくと回答している人が多い結果になっています。(保護者アンケート P. 70)
- 今後、奨学金を返済していくにあたっての見通しについてたずねたところ、「見通しはたっていないが、何とか返済できると思う」が 40 人(50.6%)、「返済についてはまだ考えていない」が 20 人(25.3%)と続いています。一方、既に「返済の見通しがたたず、とても不安」と回答している子どもも 6 人(7.6%)います。(図 18)(表 14)
- 高校卒業後の上級校への進学にあたっては、奨学金を利用しなければ進学できない可能性も高い現状があります。本調査では、進路選択にあたり「学費のこと」が子ども自身の進路選択に影響を及ぼしている現状がうかびあがっています。本調査からは十分な検討はできませんが、奨学金が「貸与型」であることについて、子ども自身の進路選択に多少の影響を及ぼしていることは否めないと考えられます。
- なお、保護者アンケートで同様の質問をした結果、「見通しはたっていないが、何とか返済できると思う」が 60.0%、「返済の見通しがたっている」が 21.3%。と続いています。(保護者アンケート P. 70)

図 17 奨学金の返済予定者 保護者 N=80、高校生 N=79 (%)

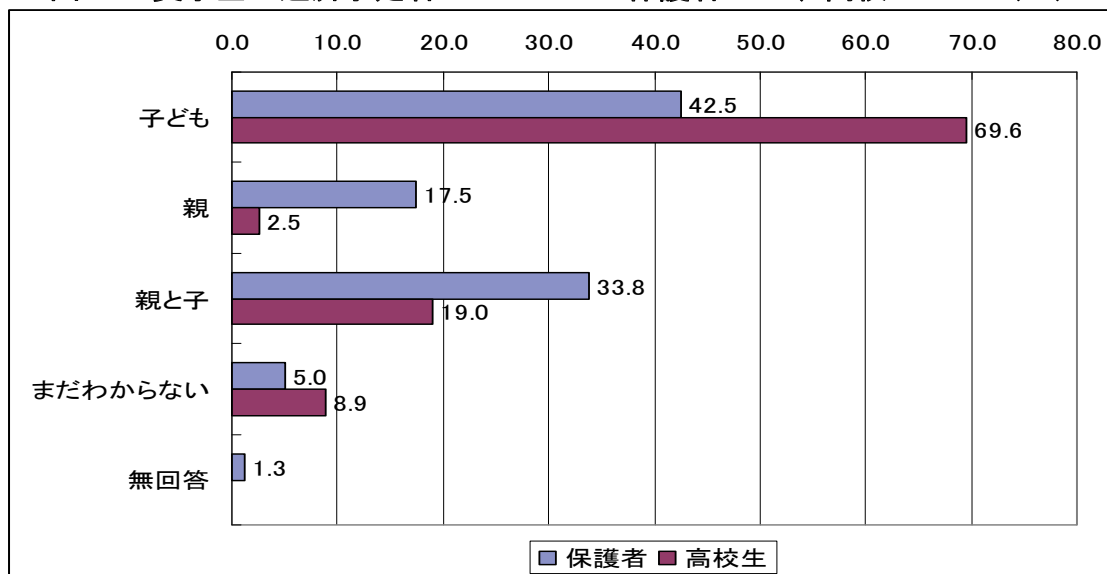


表 13 奨学金の返済予定者 高校生 N=79 (人、%)

No.	返済予定者	n	%
1	自分	55	69.6
2	親（保護者）	2	2.5
3	自分と親（保護者）	15	19.0
4	まだわからない	7	8.9
	全体	79	100.0

図 18 奨学金の返済について

保護者 N=80、高校生 N=79 (%)

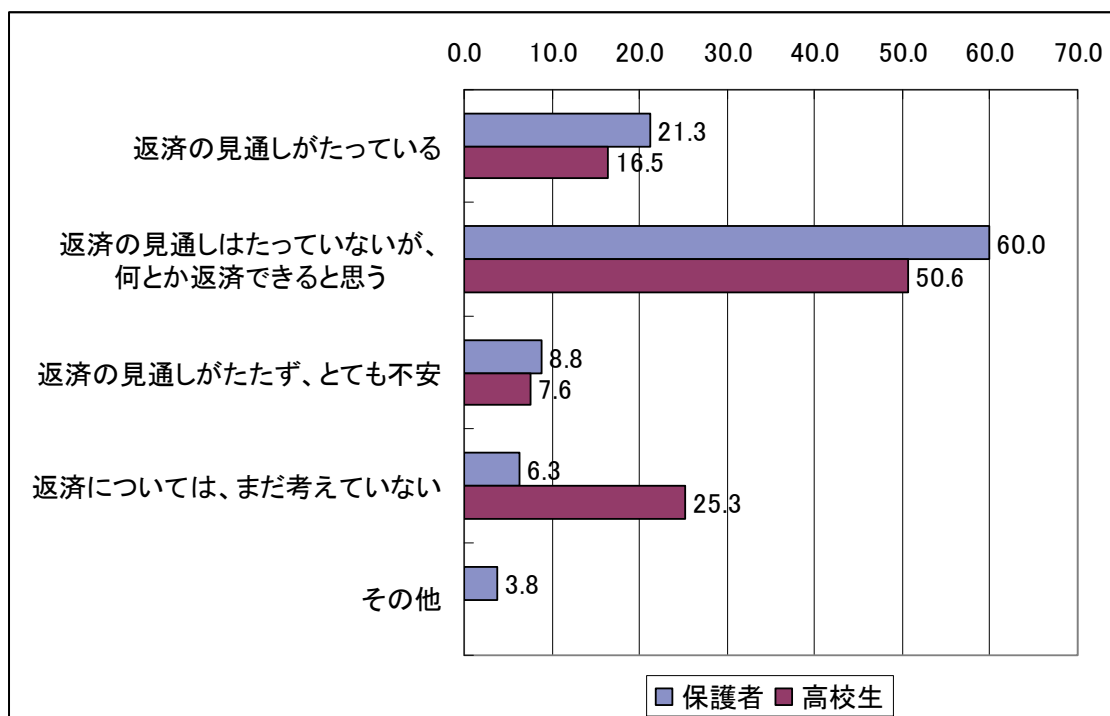


表 14 奨学金の返済について

高校生 N=79 (人、%)

No.	返済について	n	%
1	返済の見通しがたっている	13	16.5
2	返済の見通しはたっていないが、何とか返済できると思う	40	50.6
3	返済の見通しがたらず、とても不安	6	7.6
4	返済については、まだ考えていない	20	25.3
	全体	79	100.0



## 第2章

### 2 奨学金利用者の保護者に対する アンケート

## 2 奨学金利用者の保護者アンケート 調査結果

※調査結果の分析においては、原則として無回答を含む数値をもとに集計を行っています。

### (1) 回答者の基本情報

#### 1) 回答者の性別、居住地、子どもの人数

**性別は、男(父親)22.5%、女(母親)75.0%。住まいは、23区内が52.5%、23区外が47.5%。**

**子どもの人数は、「2人」が42.5%と最も多く、「3人」(22.5%)、「1人」(20.0%)と続く。そのうち、生計をともにしている子どもが「2人」いる人が、半数を占める。**

- 性別は、男性(父親)18人(22.5%)、女性(母親)60人(75.0%)。(図1)
- 住まいは、23区内が42人、52.5%、23区外が38人、47.5%。(図2)
- 子どもの人数は、「2人」が34人(42.5%)と最も多く、「3人」18人(22.5%)、「1人」16人(20.0%)と続きます。そのうち、生計をともにしている子どもは、「2人」いる人が、40人(50.0%)と半数を占め、「1人」もしくは「3人」が17人(21.3%)ずつという結果になっています。(図3)(図4)

図1 性別 N=80 (%)

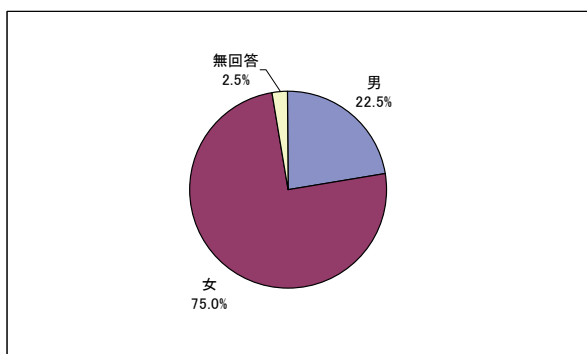


図2 住まい N=80 (%)

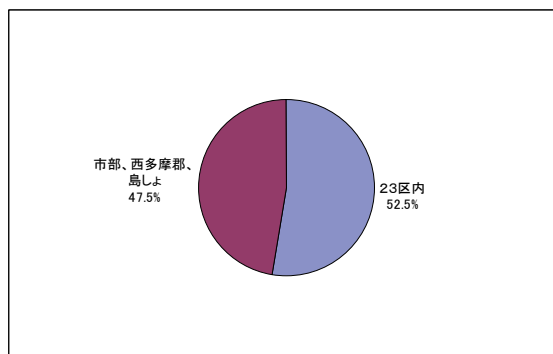


図3 子どもの人数 N=80 (人、%)

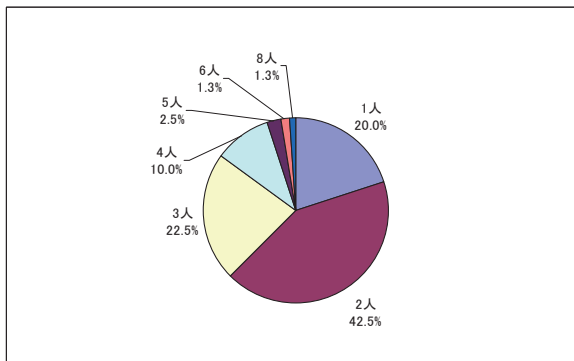
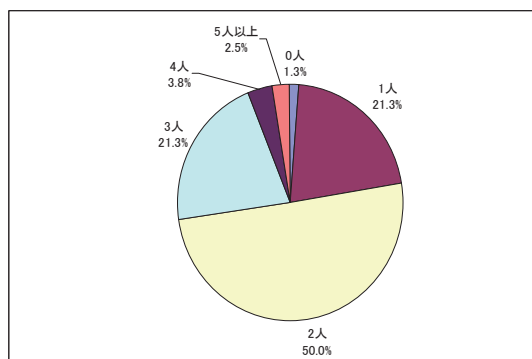


図4 生計をともにしている子どもの人数 N=80 (人、%)



2) 奨学金をうけている子どもの学年、性別、通学している高校の種類

学年は、「高1」が43.8%。いま、通学している高校は、「全日制高校(普通科)」が最も多く、全体の81.3%。定時制(夜間部)に通う子どもは、全体の2.5%であった。

- 子どもの性別は、男性47人(58.8%)、女性31人(38.8%)。(表1)
- 学年は、「高1」が35人(43.8%)、「高2」が21人(26.3%)、「高3」が24人(30.0%)。(表1)(図5)

表1 奨学金を受けている子どもの学年と性別

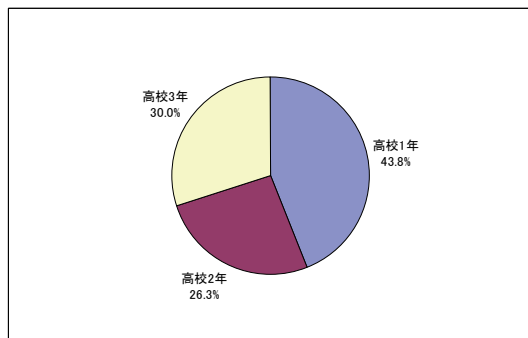
N=80 (上段：人、下段：%)

単位 上段：人		合計	あしなが奨学金受給：性別		
			男	女	無回
全体		80	47	31	2
		100.0	58.8	38.8	2.5
あし なが 奨学 金受 給： 学年	高校1年	35	21	13	1
		43.8	26.3	16.3	1.3
	高校2年	21	16	4	1
		26.3	20.0	5.0	1.3
	高校3年	24	10	14	0
	30.0	12.5	17.5	0.0	
	無回答	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0



図5 あしなが奨学金受給：学年

N=80 (%)



○ 子どもが現在、通学している高校は下表のとおりです。「全日制高校（普通科）」が最も多く、65人で全体の81.3%でした。定時制（夜間部）に通う子どもは、2人で全体の2.5%でした。（表2）

表2 子どもが現在、通っている学校

N=80（上段：人、下段：%）

単位 上段：人 下段：%	合計	現在通っている学校の種類										
		全日制 高校 (普通 科)	全日 制高 校 (専 門学 科)	全日 制高 校 (総 合学 科)	高等 専門 学校	定時 制高 校夜 間部	定時 制高 校夜 間部 以外	通信 制高 校と 高等 専門 学校	通信 制高 校と サポ ート 校	専修 学校 (高 等課 程)	その 他	不明
全体	80 100.0	65 81.3	4 5.0	3 3.8	2 2.5	2 2.5	1 1.3	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 2.5
国公立	39 48.8	28 35.0	3 3.8	3 3.8	1 1.3	2 2.5	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3
私立	39 48.8	35 43.8	1 1.3	0 0.0	1 1.3	0 0.0	0 0.0	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3
無回答	2 2.5	2 2.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

## 3) 収入と仕事

月々の収入についてたずねたところ、仕事による収入の平均額は約 15 万 5 千円であった。年金、手当、生活保護などによる月々の給付額については、平均約 10 万 8 千円であり、全くもらっていない人も 7 人(8.8%)いる。仕事による収入と年金等の給付の合計額については、「20 万円未満」の世帯が全体の 38.8%あった。平均額は 22 万 9 千円であった。

主な就労先は、「正社員・正規職員」は 16.3%で、パート・アルバイト、嘱託契約社員、派遣社員などの不安定就労に従事する人や求職中の人、全体の 47.6%と半数弱を占める。また、仕事を2つしている人は 11 人(14%)、3 つ以上の仕事をしている人も 3 人(4%)いる。

- 就労収入を月額で把握したところ、「20 万円以上」が 26 人(32.5%)、「15~20 万円以上」が 12 人(15.0%)、「0 円~15 万円」が 16 人(20.0%)、「0 円」が 12 人(15.0%)で、平均額は 154,570 円でした。男女別で見ると、父親は平均額 163,445 円に対し、母親は 151,953 円という結果でした。(表 3)
- 年金、手当、生活保護などによる給付を受けている人が 75 人で、給付の最低額が 10,000 円、最高額が 40,000 円で、平均額は 107,798 円でした。また、全く給付を受けていない人は 7 人(8.8%)でした。男女別で見ると、父親の給付平均額は 89,824 円、母親は 116,676 円という結果でした。(表 4)
- 仕事による収入と年金等の給付の合計額については、「20 万円以下」の世帯が全体の 38.8%の 31 人で、平均額は 228,581 円でした。男女別に再計算すると、父親は 221,055 円が平均額であるのに対し、母親は 230,765 円という結果でした。(表 5)(図 6)

表3 仕事による毎月の収入 N=80 (上段：人、下段：%)

単位		合計	仕事による毎月の収入							平均
			0円	～5万 円未満	5～10万 円未満	10～15万 円未満	15～20万 円未満	20万円 以上	不明	
全体		80 100.0	12 15.0	2 2.5	7 8.8	7 8.8	12 15.0	26 32.5	14 17.5	154,570
性別	男	18 22.5	3 3.8	1 1.3	0 0.0	1 1.3	2 2.5	8 10.0	3 3.8	163,445
	女	60 75.0	9 11.3	1 1.3	7 8.8	6 7.5	9 11.3	17 21.3	11 13.8	151,953
	無回答	2 2.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3	1 1.3	0 0.0	

表4 遺族年金、児童扶養手当、生活保護費等による給付額

N=80 (上段：人、下段：%)

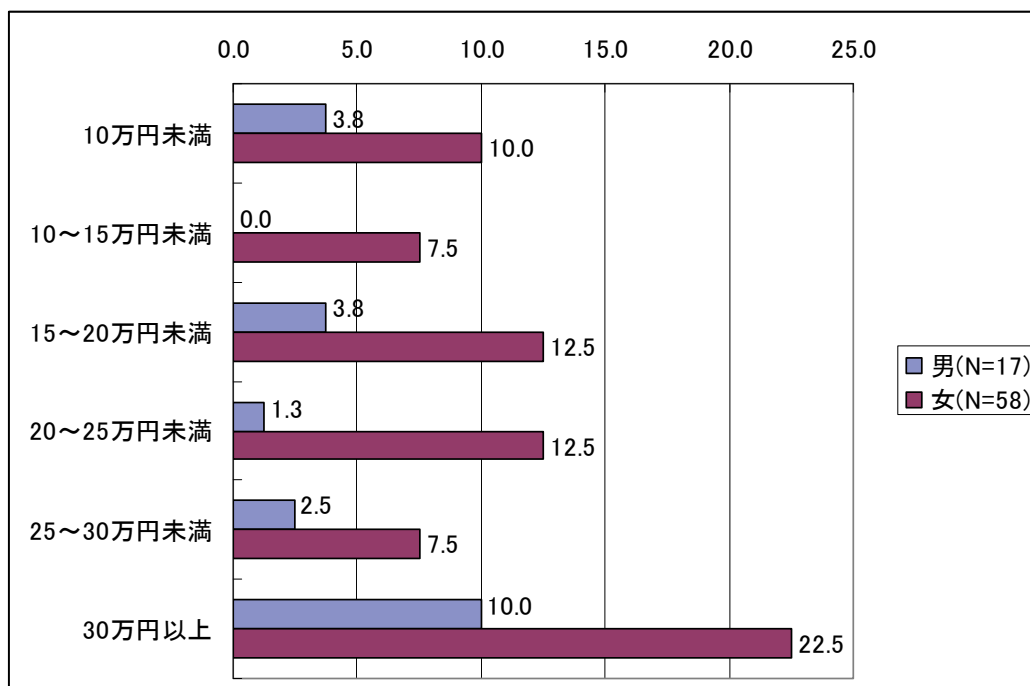
単位		合計	遺族年金、児童扶養手当、生活保護費等による給付額							平均
			0円	～5万 円未満	5～10万 円未満	10～15万 円未満	15～20万 円未満	20万円 以上	不明	
全体		80 100.0	7 8.8	10 12.5	15 18.8	21 26.3	14 17.5	8 10.0	5 6.3	107,798
性別	男	18 22.5	3 3.8	3 3.8	4 5.0	3 3.8	1 1.3	3 3.8	1 1.3	89,824
	女	60 75.0	3 3.8	6 7.5	11 13.8	18 22.5	13 16.3	5 6.3	4 5.0	116,676
	無回答	2 2.5	1 1.3	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

表5 毎月の収入（仕事による収入と年金等の給付の合計）

N=80（上段：人、下段：％）

単位 上段：人 下段：％		合計	収入の合計								平均	
			0円	～5万円未満	5～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～25万円未満	25～30万円未満	30万円以上		不明
全体		80 100.0	2 2.5	3 3.8	6 7.5	6 7.5	14 17.5	12 15.0	8 10.0	26 32.5	3 3.8	228,581
性別	男	18 22.5	0 0.0	1 1.3	2 2.5	0 0.0	3 3.8	1 1.3	2 2.5	8 10.0	1 1.3	221,055
	女	60 75.0	2 2.5	2 2.5	4 5.0	6 7.5	10 12.5	10 12.5	6 7.5	18 22.5	2 2.5	230,765
	無回答	2 2.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

図6 毎月の収入（％）



- 主な仕事の就労形態は、「パート・アルバイト」18人(22.5%)、「正社員・正規職員」13人(16.3%)、「嘱託・契約社員」11人(13.8%)でした。パート・アルバイト、嘱託契約社員、派遣社員などの不安定就労に従事する人や求職中の方は、38人で全体の47.6%と半数弱を占めます。また、仕事を2つしている人は11人(14%)、3つ以上の仕事をしている人も3人(4%)いました。(表6)(図7)(表7)(図8)

表6 主な仕事の就労形態

N=80 (人、%)

No.	主な仕事の就労形態	n	%
1	正社員・正規職員	13	16.3
2	パート・アルバイト	18	22.5
3	嘱託・契約社員	11	13.8
4	人材派遣会社の派遣社員	2	2.5
5	自営業主	8	10.0
6	自営業の手伝い(家族従事者)	3	3.8
9	仕事はしていないが、探している	7	8.8
10	仕事はしていない	11	13.8
	無回答	7	8.8
	全体	80	100.0

図7 主な仕事の就労形態

N=80 (%)

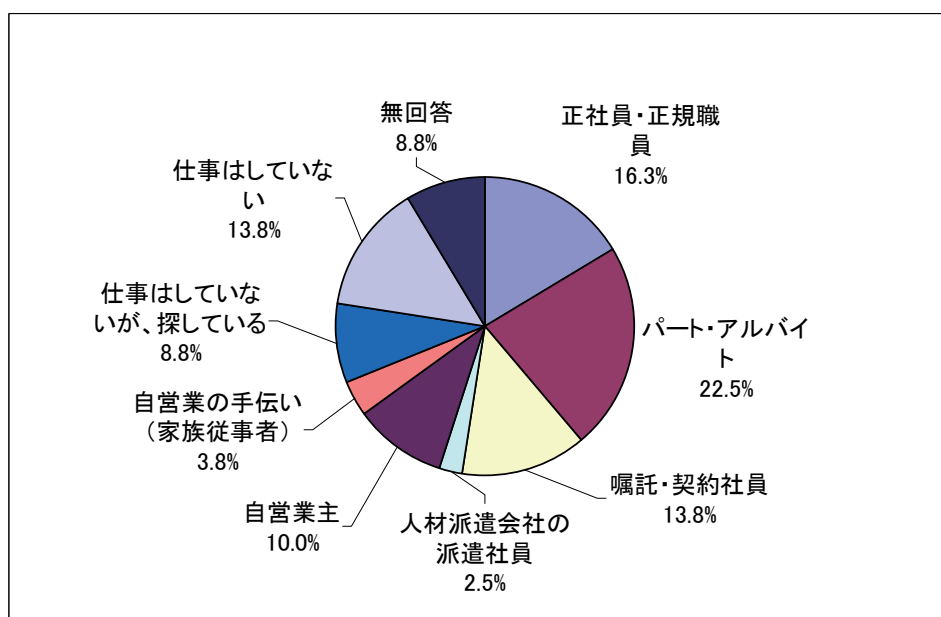
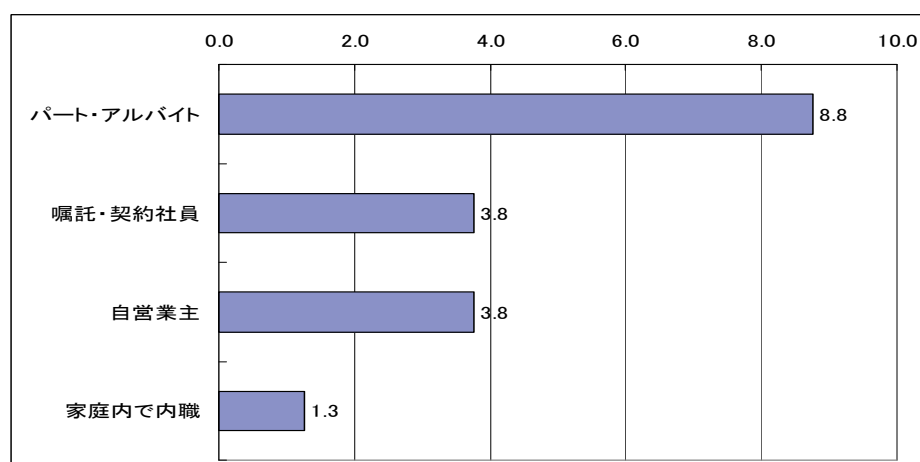


表7 2つ以上仕事をしている人の「主な仕事」以外の就労形態  
複数回答、N=14（人、％）

No.	主な仕事以外の就労形態（複数回答）	n	%
1	パート・アルバイト	7	8.8
2	嘱託・契約社員	3	3.8
3	自営業主	3	3.8
4	家庭内で内職	1	1.3

図8 2つ以上仕事をしている人の「主な仕事」以外の就労形態  
複数回答、N=14（％）



## (2) 中学卒業後の進路選択時の状況について

中学卒業後の進路選択時の状況について把握するために、困っていたことや子どもの高校受験のための勉強方法、必要な情報をどのように入手したか、受験を振り返りどのような情報が必要だったと思うかについてうかがいました。また、奨学金制度等や教育費の助成・貸付制度の利用についてうかがいました。

## 1) 高校受験のための勉強方法

**高校受験時の勉強方法は、「塾に通った」が62.5%。また、塾や通信教育、学校の補習などを利用しなかった人が12.5%。**

- 高校受験時の勉強方法を複数回答でたずねたところ、「塾に通った」が50人(62.5%)。また、塾や通信教育、学校の補習などを利用をしなかった人が10人(12.5%)という結果でした。(表8)(図9)
- 高校生アンケートでも、同様の質問をしており、その結果は、「塾に通った」が47人(59.5%)。また、塾や通信教育、学校の補習などを利用しなかった人が11人(13.9%)という結果でした。
- 文部科学省が実施した平成20年度「子どもの学習費調査」によると公立中学に通う3年生で、学習塾へ支出があった人の割合は83.4%(全国平均)であり、本調査との差が顕著にみられます。

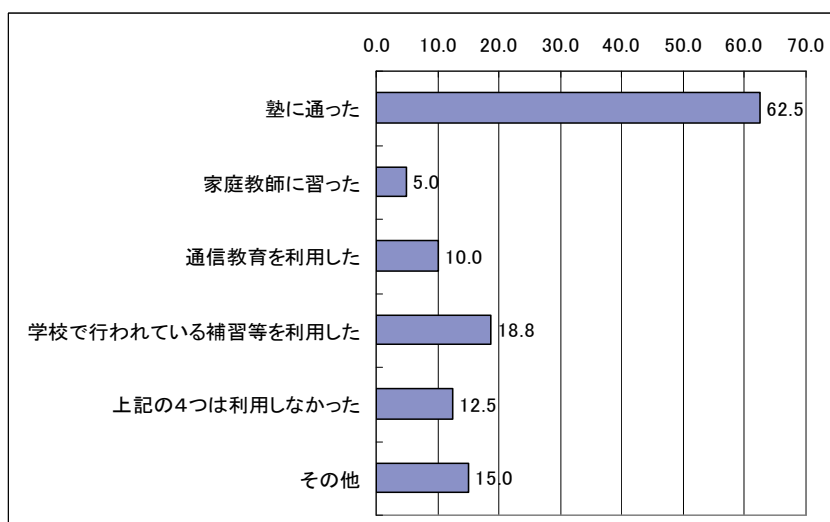
(参考リンク) 文部科学省「子どもの学習費調査」学年(年齢)別, 所在市町村の人口規模(学科)別の学習費支出状況

(<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001061593>)

**表8 子どもの高校受験時の勉強方法** **複数回答、N=80(人、%)**

No.	勉強方法	n	%
1	塾に通った	50	62.5
2	家庭教師に習った	4	5.0
3	通信教育を利用した	8	10.0
4	学校で行われている補習等を利用した	15	18.8
5	1～4は利用しなかった	10	12.5
6	その他	12	15.0
	無回答	0	0.0
	全体	80	100.0

図9 子どもの高校受験時の勉強方法 N=80 (%)



2) 子どもの中学卒業後の進路を考える上で、困っていたこと  
(自由記述)

「経済面で困っていたこと」としては、授業料や授業料以外の入学金をはじめとする学校納付金、定期代や部活、修学旅行などの費用に対する負担を心配する意見が多く寄せられた。とりわけ私立高校の学費負担を心配する意見が多かった。また、学校納付金以外の教育費がそもそもどれくらいかかるか分からず困ったという意見や収入減、不安定収入といった安定した生活費が得られないことを苦慮する意見も少なくない。

「経済面以外で困っていたこと」としては、子どもの心身面や子どもが学校生活になじめるかどうかを心配する意見が多くあがった。また、親が忙しく、家の中の事だけでなく、保護者会や支払い関係といったことを行う時間のやりくりが厳しい中で、ひとり親家庭で孤独な子育てを強いられている状況や親の心身状況が優れず、子どもが家事を担わざるをえない家庭状況などの声があがっている。



## 自由記述欄

子どもの中学卒業後の進路を考える上で困っていたこと（経済面）自由記述・抜粋

### （授業料、その他付随する教育費の負担）

- その先の進路を考えるにあたり、予備校等へのお金が必要になったら…どうしよう…。
- 日常にかかる（通学交通費や学校の諸経費）お金。
- 学費
- 学費（修学旅行積立）、学生服、教科書、通学定期代等、入学時にまとまった資金が必要となるが、いくらになるかよく分らなかった事。
- 学費、こづかい等の費用。
- 学費や部活（校外活動や部活の試合、通学費など）（教科書、参考資料辞書、制服）
- 学費等がこれから先に、どのくらい必要となるか。
- 学費免除や奨学金がもらえるかどうか確約がなかった事。
- 高校3年間の授業料。
- 受験、国公立、私立の場合の授業料について。
- 授業料、交通費、その他、中学校とは違ってお金がかかるので、入学の前、教科書、制服、その他、思ってもみなかった出費に目の前がまっくらになりました。高校生活を続けさせられるのか不安で。
- 授業料の支払と交通費の支払い、昼食（弁当）を作れない時の昼代。
- 授業料等の支払いの事
- 定期代や雑費、もちろん修学旅行などのお金。
- 入学金が足りない。授業料を支払っていけるか心配。
- すでに通っていた塾で進学に向けて努力していたので、辞めることができず、生活がきびしくなった。
- 学納金、入学金をどうやってそろえ、また続けていけるかどうか。

### （私立高校学費）

- 私学に行くと言うので、学費の事が気になりました。
- 塾など、お金がかかる事。公立に落ちて私立だったので最初のお金も大変だった。
- もし、都立でなく私立高校へ通った場合の授業料、入学金、特に入学金は私立に「30万円」支払ったこと。都立高校に合格し、私立へは行かなかったのは幸いですが、「30万円」はとても大きな負担となりました。
- 公立に入れなかったら、経済的に無理だったが受かってよかった。
- 公立高校にやるくらいの余裕があったから、経済面では困難は余り感じなかった。授業料減免や「足なが」などの奨学金の制度もあったから。
- 高校が私立なので授業料以外で色々かかりそうで不安でした。

子どもの中学卒業後の進路を考える上で困っていたこと（経済面）自由記述・抜粋

○高校進学を希望していたが、成績が低く都立高校への入学はむずかしいと言われ、私立を受験するように進められたが、我が家の経済状態では支払いができないのであきらめさせていた。奨学金を借りることができたとしても、返済を考えると借りることもできない状態であった。

○高校生活にどのくらいのお金が必要になるか。授業料はわかりますがそれ以外に部活動に関するものや、塾なども含めて入ってから払うことができないものがあるかどうか。

○今ほど安定した収入ではなく、私立しか行けなかったら、貯金くずしの生活になると思っていた。

○私立でしたら資金面で無理でした。

○私立では負担が金銭面できつかった。

○私立に合格しましたが、入学金、授業料3年間無理、あしなが奨学金ではたりないので。

○私立になった場合の授業料、入学金。

○私立は、全く考えられなかったこと。子供に頑張ってもらって公立にってもらうしかなかった。

○私立は考えていなかったが、一人は現実私立になってしまった。

○私立は行かせることができないし、受験するお金もない。

○私立高校に通いたいとの事でしたので学校に入学してからどの位のお金がかかるかわからなかったので心配でした。

○私立高校に入った上で、金銭面で間にあうかどうか。

○私立高校に入って入学費用や学費が高かったこと。

○私立高校を受験するにあたって、入試のための受験料など入学金や授業料も高額で、一度に支払うのは大変だと感じた。

○借金もたくさんあり、今現在生活していくのも大変だったので、高校の学費を払っていけるかわからなかったし、私立だと入学金などのお金を考えてしまった。給料が下がりボーナスもなくなってしまったので、学費の面が心配でした。

○小学校から私立に通っていたため、小学校の時、学校から借りていた奨学金を返済したため、入学金等の工面が大変でした。

○大学に進みたいという本人の意志を考えると、私立の高校に入学させたいと思っていたが、下に二人子供がいることを考え、私立の進学はムリだと思った。奨学金を借りても、それだけではとても足りないので悩んだ。

○中学校より私立に通学させていたので、金銭面でかなりキツイ事は理解していました。しかし、私が会社員でないため（パート、アルバイトなので）、土地を担保にしても銀行から教育ローンを貸してもらえなかった。

子どもの中学卒業後の進路を考える上で困っていたこと（経済面）自由記述・抜粋

- 中高一貫校なので更に高校進学時に入学金が必要だったこと。公立を受け直した方がいいか。そのまま進学校なので頑張って通わせるか。
- 都立に行くと言っていたので、無償だと思い困る事はなかった。
- 都立に入学出来ると良かったのですが、失敗しました。私立に入学する事になりまして、高校生2人と中3なので又、高3の長男の進学の事も考えると大変でした。
- 都立は競争率が激しいので、落ちたらどうしよう。もし、私立に入ったらお金が続くだろうか？
- 都立校に入れなかったら、どうしようかと、実際、私立校でかかる費用の支払いは、いくら援助を受けたとしても困難なので、大変不安でした。
- 本人が私立に行きたがっていましたが、経済面で賛成できずにいました。
- 当時は月収が10～15万円程度で、先も見えず私立に行くことは全く考えられなかった。受験時も、すべり止めなどは受けず、第1志望の都立高校のレベルを下げ1校のみ受験した。塾に行けず、学習面で不安があった。
- 私立希望であったため、学費に悩んだ。

**（収入減、安定した収入が得られない）**

- 安定した収入の確保が難しい。仕事にエネルギーを割ける家庭環境にない。
- 会社で大規模なリストラがあった時期で、今後のことに不安を感じていた。
- 仕事上、収入が減った事。
- 主人が病気になり、あまり働けなくて収入が少ない。
- 収入が減ったため。
- 進学をさせたくても、健康面で仕事が出来ない為。
- 先の見通しがたたなかったこと。姉妹平等に育てようと思い、家計の事を私自身が考えずにいたこと。
- 専業主婦で長い間家にいたので、就職したくても仕事につけない。経歴（職歴）がない。
- 夫の病気の事と、高校の途中で定年になる事。
- 離婚した為、家のローンと生活費、そして学費（私立）等で、生活がとても大変となった。
- 資金が足りない。
- 頑張るしかないという思いのみでした。

子どもの中学卒業後の進路を考える上で、困っていたこと（経済面以外）

自由記述・抜粋

（子どもの心身面、学校生活への心配）

- 下の子供に障害があり、普段の生活の時でも闘わなければならないことが多く、また、子供の思春期の情緒不安定さに苦しめられている。
- 学校でうまくやっていたか。
- 子どもの反抗に悩まされました。特に拒食症になった時、本当に困りました。
- 私（母親）自身が体に障害があり、入退院をくり返していて、家の事は子供がやっていたので、勉強と家の用事で大変だったので困っていました。
- 精神面。私立受験直前に父親が死亡したのでショックが大きかった。毎日泣いていたので心配した。
- 精神面でのフォローが上手にできるか不安だ。
- 体調があまり良い方ではなかったため、3年間続けていけるかどうか不安でした。
- 中3という多感な時期に一人親になってしまい、特に男の子で相談できる父親がいないことは、精神的に不安定であった。父の亡くなった事を隠そうとしていた。
- 中学2年で体調を崩し、入院が多く、高校進学ができるか難しい状況でした。
- 中学3年時の夏まで大阪の中学に通学して、家庭の事情で転校した為、子供の精神面に不安があった。
- 中学のほとんどが不登校であった為、学校になじめず教育相談室や学習相談室へ通い勉強していたが、仮に高校へ進学できたとしても通学ができるか不安であった。人間関係がうまくいかず、中学三年になってからは児童精神科に入院をし、院内学級に転校をさせてからは治療もうまくいき自立してきた。それまでは大変でした。院内学級が千葉県であったので、都立高校受験の相談するのができなかった。
- 中学の時、いじめを受けて転校した経験があったので、高校で友人関係をうまく築けるか心配だったが、相談する人がいなかった。
- 父親がいないことで、本人が相談したくてもできないことや、精神面での不安を解消できるかと、考えることがあった。
- 父親を亡くしてからの子どもの心のケア。
- 友人と良くやってゆけるのだろうか？

（親の多忙、体調面での不安、子育ての孤独）

- 家事の事
- 家事全般（料理、そうじ、さいほう、買い物）、PTAや保護者会への参加。
- 学校の事を相談できる人がいなかった。
- 学校説明会に行く時間を作ることでいそがしい思いをしたり、他の子（当事者以外の姉・弟）に負担をかけてしまう。書類の提出、受験料の振込みに行くこと、自

子どもの中学卒業後の進路を考える上で、困っていたこと（経済面以外）

自由記述・抜粋

- 分1人でしないといけないことがある。
- 仕事の事もあったが、体調が悪く（血圧など）入院する程ではないけれど不安になりました。
  - 仕事をかけもちすることをどうするか？体力的につらくなったり、仕事におわれて、子供をよく見る時間が少なくなってしまうことに悩みました。→2年前、ケガをして1つに絞りましたが。
  - 子供が将来のことをまだ本気で考えられないこと。精神的にむづかしい年頃の男の子を育てるのが大変です。女親だと怖くないし、悪いことして怒っても効き目がないようです。夜中までパソコンでメールしてて、何度言ってもダメで、やはり男親が将来について話にのってあげたりしてあげられないのは大変マイナスだと思いました。
  - 志望校が高望みだったが、それをいさめてくれる身内がはず、孤独を（私が）感じた。
  - 私の体がよくなること。うつがひどくて外出できない。人と話ができない。死にたいと思うこと。消えてなくなりたいと毎日思っていました。子供がいるのに親として失格。
  - 自身が難病で自宅療養している為、生活の世話を子供達にしてもらわなくてはならない事。
  - 情報を集めるのにとっても苦労した。毎日、働いているので、平日、情報収集に使える時間が、まったく無い状態で大変ストレスと不安を感じた。
  - 生活面で注意する人が一人しかいなかった事。
  - 男だけの一人親なので、母親の細かい愛情に欠けた中で子供を育てていくことのむづかしさ。男親は仕事と家事で疲れてしまうので、子供にとっては情愛の欠如を感じて、勉強などにも身が入らないことがあったと思う。
  - 本人と話し合って、希望の学校へ進学を考えていたので、子供に関してはなかった。私自身が身体障害者であり、生計主であるので、健康面で不安があった。
  - 面断等、保護者出席があまり出来ない。（母に身体障害有の為）

（子どもの学力（塾へ行かせられない））

- 子供の成績の事、いい塾に行かせられなかった。
- 自宅学習の習慣がついていないため、塾に行かせてくれと言われ、どんなに、自分でやるように言っても、やらないので困った。
- 成績があまりよくなく、「3」前後、選択肢ほとんどなく、夏休み、文化祭、説明会、見学に行った高校も片はしからこれダメあれダメと言われ、実際入った高校は

子どもの中学卒業後の進路を考える上で、困っていたこと（経済面以外）

自由記述・抜粋

1 2月からバタバタ見に行った学校だったので、部活のことやスクールバスが有るとおもってたのになかったこと、リサーチ不足で困ったこと有。

○本人の能力をどうやって引出したら志望高に入学させる事が出来るか、それをどうやって本人に理解させ実力を付けたら良いかについて苦心した。

（その他）

○兄弟がいるので、公立にいつて欲しかった。

○高校卒業後の進路。

○大学進学に向けての学費（参考書代、塾代）。

○都立の高校に入れたい事。

○チャレンジ支援金を申請したが、昨年の状況で判断され、もらえなかった。今年は大変生活が厳しいので困った。

### 3) 進路を考える時の必要な情報の入手

**進路選択するうえで必要と考えられる情報について、願書提出前に、どの程度、得られていたかを4段階(「十分に得られていた」~「まったく得られなかった」)でたずねところ、「入学金・授業料」以外の教育費や奨学金については、9割強の人が「絶対に必要」「あった方がよい」と回答したが、実際に情報が得られていたかどうかについては、3割以上の人が「あまり得られなかった」、「全く得られなかった」と回答している。**

- 進路選択するうえで必要と考えられる情報について、願書提出前に、どの程度、得られていたかを4段階(「1.十分に得られていた」、「2.ある程度得られていた」、「3.あまり得られなかった」、「4.まったく得られなかった」)でたずねました。また、受験をふりかえってのこれらの情報の必要性について、4段階(「1.絶対に必要」、「2.あった方がよい」、「3.あまり必要ない」、「4.必要ない」)でたずねました。(表9)
- また、それぞれの評価を次のように計算をし、「必要度」に対しどの程度「情報が得られていたか」について分析を行いました。(表9：指数の部分)
  - (1) 情報が得られていたかの度合い
    - 「1.十分に得られていた」…4点
    - 「2.ある程度得られていた」…3点
    - 「3.あまり得られなかった」…2点
    - 「4.全く得られなかった」…1点
  - (2) 受験をふりかえってどの程度知っておいたらよかったか
    - 「1.絶対に必要」…4点
    - 「2.あった方がよい」…3点
    - 「3.あまり必要ない」…2点
    - 「4.必要ない」…1点

表9 情報の必要度と実際に得られていたかの度合い N=80(上段:人、下段:%)

単位 上段:人 下段:%	(1) 情報が得られていたかの度合い							指数 (A)	(2) 受験を振り返ってどの程度知っておいた らよかったと思うか						指数 (B)	指数 の差 異 (B -A)
	合計	1 十分 に得 られて いた	2 ある 程度 得ら れて いた	3 あま り得 られ な かつ た	4 まっ たく 得ら れ な かつ た	無回 答			合計	1 絶対 に必 要	2 あつ た方 がよ い	3 あま り必 要な い	4 必要 ない	無回 答		
学費の こと につ いて	ア. 入学 金・授業 料など の費用	80	32	35	8	3	2		80	66	13	0	0	1		
		100.0	41.0	43.8	10.0	3.8	2.5	319.2	100.0	83.5	16.5	0.0	0.0	1.3	383.5	-64.3
	イ. 入学 金 授業料 以外に 学校で かかる 費用	80	14	30	27	9	0		80	58	22	0	0	0		
		100.0	17.5	37.5	33.8	11.3	0.0	261.4	100.0	72.5	27.5	0.0	0.0	0.0	372.5	-111.1
	ウ. 自分 が借 りら れる (うけ られ る) 奨 学 金 の種 類	80	9	45	22	4	0		80	59	21	0	0	0		
		100.0	11.3	56.3	27.5	5.0	0.0	274.1	100.0	73.8	26.3	0.0	0.0	0.0	374.1	-100.0
学校・ 入試 情報 につ いて	エ. 奨学 金を いくら 借 りら れる か (うけ られ るか)	80	12	40	22	5	1		80	57	23	0	0	0		
		100.0	15.0	50.0	27.5	5.0	0.0	270.0	100.0	71.3	28.8	0.0	0.0	0.0	371.6	-101.6
	オ. 奨学 金を 借り た場 合、 将来 い くら 返 せ ば よ い の か	80	11	39	23	6	1		80	59	20	1	0	0		
		100.0	15.0	50.0	27.5	6.3	1.3	271.3	100.0	73.8	25.0	1.3	0.0	0.0	372.8	-101.5
	カ. 全日 制高 校(国 公立) の学 校・ 入 試の 情 報	80	24	36	12	2	6		74	52	21	0	1	6		
		100.0	30.0	45.0	15.0	2.5	7.5	287.5	100.0	65.0	26.3	0.0	1.3	7.5	340.2	-52.7
キ. 全日 制高 校(私 立) の学 校・ 入 試の 情 報	80	22	29	21	2	6		74	42	28	4	0	6			
	100.0	27.5	36.3	26.3	2.5	7.5	274.0	100.0	52.5	35.0	5.0	0.0	7.5	325.0	-51.0	
ク. 定 時制 高 校の 学 校・ 入 試 情 報	80	6	15	24	23	12		69	19	31	9	10	11			
	100.0	7.5	18.8	30.0	28.8	15.0	175.2	100.0	23.8	38.8	11.3	12.5	13.8	246.7	-71.5	
ケ. 通 信制 高 校の 学 校・ 入 試 情 報	80	6	10	25	26	13		68	18	30	10	10	12			
	100.0	7.5	12.5	31.3	32.5	16.3	162.6	100.0	22.5	37.5	12.5	12.5	15.0	240.0	-77.4	
コ. サ ポー ト校 の学 校・ 入 試 情 報	80	5	7	29	25	14		68	17	30	11	10	12			
	100.0	6.3	8.8	36.3	31.3	17.5	155.5	100.0	21.3	37.5	13.8	12.5	15.0	237.8	-82.3	
サ. 二 次募 集、 三 次募 集に 関 する 入 試 情 報	80	5	16	27	19	13		68	21	37	3	7	12			
	100.0	6.3	20.0	33.8	23.8	16.3	176.6	100.0	26.3	46.3	3.8	8.8	15.0	260.5	-83.9	
シ. 調 査書 (内申 書) など 入 試 の 仕 組 み に 関 する 情 報	80	12	34	18	6	10		71	42	22	3	4	4			
	100.0	15.0	42.5	22.5	7.5	12.5	240.0	100.0	52.5	27.5	3.8	5.0	11.3	305.1	-65.1	



- 情報の必要性については、すべての項目について、少なくとも6割前後、多くは9割強の人が「あった方がよい」、「絶対に必要」と回答しています。(表9)
- その中で、「定時制高校」、「通信制高校」、「サポート校」、「二次・三次募集に関する事」については、「十分に得られていた」「ある程度得られていた」と回答した人は、半数以下にとどまりました。なお、これらの情報の必要性については、他の情報と比較し、「あまり必要ない」「必要ない」と回答した人が若干、多いものの、約6割前後の人たちが「絶対に必要」、「あった方がよい」と回答しています。(表9)
- 「情報の必要性」に対し、「情報が得られていた度合い」が低かったのは、次の項目です。上位4つを「入学金・授業料」以外の学費に関する内容が占めています。

1	入学金・授業料以外に学校でかかる費用のこと	-111.1
2	奨学金をいくら借りられるか(うけられるか)	-101.6
3	奨学金を借りた場合、将来いくら返せばよいのか	-101.5
4	自分が借りられる(うけられる)奨学金の種類	-100.0
5	二次募集、三次募集に関する入試情報	-83.9

- 「入学金・授業料」以外の教育費や奨学金については、9割強の人が「絶対に必要」「あった方がよい」と回答していますが、実際に情報が得られていたかどうかについては、3割以上の人が「あまり得られなかった」、「全く得られなかった」と回答しています。指数による差異の比較でもその点が明らかになりました。(表9)

#### 4) 進路を考える時の必要な情報の入手先

情報を調べた方法や問合せ先として多くあげられたのは、「高校の学校説明会」、「中学校の先生」、「インターネット(パソコン)」、などである。それぞれの情報で最も多く問合せ先としてあげられたのは、「入学金・授業料以外にかかる費用」については、「高校の学校説明会」が61.3%、「学校・入試情報」についても「高校の学校説明会」が47.5%、「奨学金情報」については、「中学校の先生」40.0%であった。

- 中学卒業後の進路選択をする上で、必要な情報と考えられる「入学金・授業料以外にかかる費用」、「奨学金情報」、「学校・入試情報」について、それぞれ「調べた方法や問合せ先」をたずねました。また、その中で役立つ方法や問合せ先についてたずねました。(図10)(図11)(図12)
- 「入学金・授業料以外にかかる費用」について調べた方法や問合せ先は、「高校の学校説明会」49人(61.3%)、「インターネット(パソコン)」26人(32.5%)、「本」25人(31.3%)の順に多いという結果になりました。(図10)
- 「奨学金制度」については、「中学校の先生」32人(40.0%)、「インターネット(パソコン)」24人(30.0%)、「高校の学校説明会」18人(22.5%)の順でした。(図11)
- 「学校・入試情報」については、「高校の学校説明会」38人(47.5%)、「中学校の先生」36人(45.0%)でした。(図12)
- 媒体別にみると、「インターネット(パソコン)」は、どの情報についても3割以上の方が「調べた方法」としてあげています。(表10)
- 「本」については、「入学金・授業料以外にかかる費用」の情報を得た人が25人(31.3%)、「学校・入試情報」については23人(28.8%)いるのに対し、「奨学金情報」は8人(10.0%)であり、差がみられました。「高校の学校説明会」も同様の傾向があり、「入学金・授業料以外にかかる費用」の情報を「学校説明会」から得た人は49人(61.3%)、「学校・入試情報」は38人(47.5%)の人が得ていますが、「奨学金情報」は18人(22.5%)という結果でした。(表10)
- 「中学校の先生」からは32人(40.0%)の人が「奨学金制度」の情報を、36人(45.0%)の人が「学校・入試情報」得ていますが、「入学金・授業料以外にかかる費用」については、13人(16.3%)であり、差があります。(表10)
- また、「役所の職員」(母子自立支援員、生活保護ワーカー、その他)へ「問合せた」人は少なく、「奨学金情報」についても、17人(21.3%)にとどまり、福祉分野から情報提供をうけるケースは少ないという状況です。(表10)
- さらに、情報を「調べた方法や問合せをした人」の中で「役立つ方法や問合せ先」をたずねました。(図10)(図11)(図12)(表10)
- 情報を「調べた方法や問合せをした人」を回答した人のうち、「役立つ方法や問合せ方法」について回答があった人は、「入学金や授業料以外にかかる費用」については5割の人が、「奨学金制度」「学校・入試

情報」については42.5%の人が「役立つものがあった」と回答しています。(図10)(図11)(図12)(表10)

- 「役立つ方法や問合せ先」としては、「入学金・授業料以外にかかる費用」については、「高校の学校説明会」で調べたと回答した人の中で半数以上が役立つと評価しています(図10)(表10)。しかし、「奨学金制度」や「学校・入試情報」については半数を超える人が評価している媒体が殆んどなく、情報収集が難しい状況にあります。(図11)(図12)(表10)

図10 「情報の入手先と役立つ方法や問合せ先」－入学金・授業料以外にかかる費用 複数回答、N=80(人、%)

問合せの有無		役立つかどうか	
問合せしたり、調べたりした人	73人(91.3%)	役立つものがあったと回答した人	40人(50.0%)
無回答	7人(8.8%)	無回答(役立つものがなかった)	33人(41.3%)

複数回答、N=80(%)

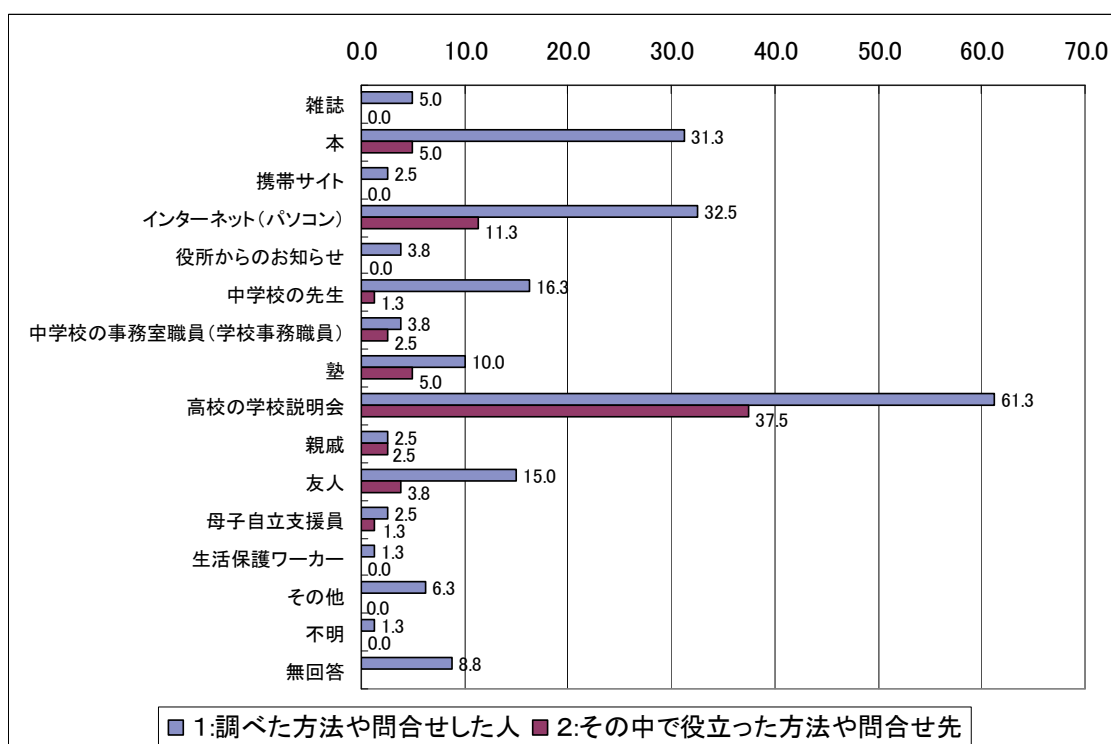


図11 「情報の入手先と役立つ方法や問合せ先」－奨学金制度  
複数回答、N=80（人、％）

問合せの有無		役立つかどうか	
問合せしたり、 調べたりした人	75人 (93.8%)	役立つがあったと回答した人	34人 (42.5%)
無回答	5人 (6.3%)	無回答(役立つものがなかった)	41人 (51.3%)

複数回答、N=80（％）

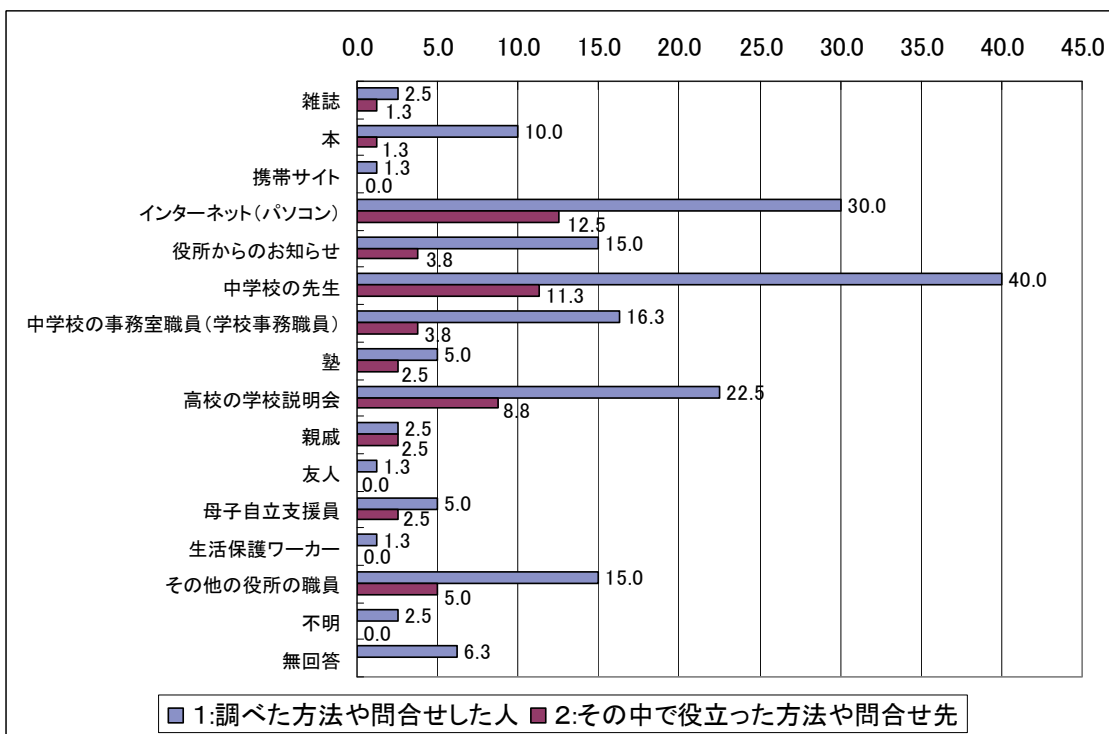


図12 「情報の入手先と役立った方法や問合せ先」－学校・入試情報  
複数回答、N=80（人、％）

問合せの有無		役立ったかどうか	
問合せしたり、調べたりした人	73人 (91.3%)	役立つがあったと回答した人	34人 (42.5%)
無回答	7人 (8.8%)	無回答(役立つものがなかった)	39人 (48.8%)

複数回答、N=80（％）

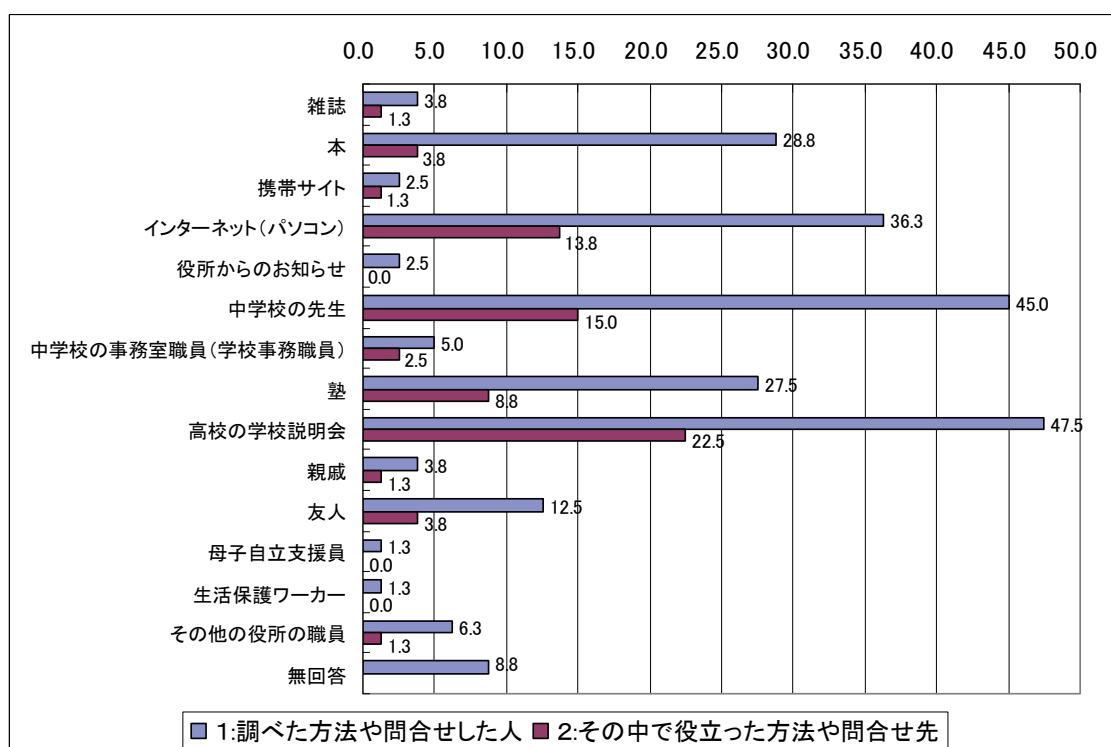


表10 「情報の入手先と役立った方法や問合せ先」  
複数回答、N=80（上段：人、下段：％）

		A 入学金・授業料以外にかかる費用		B 奨学金制度		C 学校・入試情報	
		1 調べた方法や問合せした人	2 その中で役立った方法や問合せ先	1 調べた方法や問合せした人	2 その中で役立った方法や問合せ先	1 調べた方法や問合せした人	2 その中で役立った方法や問合せ先
	全体	80		80		80	
		100.0		100.0		100.0	
1	雑誌	4	0	2	1	3	1
		5.0	0.0	2.5	1.3	3.8	1.3
2	本	25	4	8	1	23	3
		31.3	5.0	10.0	1.3	28.8	3.8
3	携帯サイト	2	0	1	0	2	1
		2.5	0.0	1.3	0.0	2.5	1.3
4	インターネット（パソコン）	26	9	24	10	29	11
		32.5	11.3	30.0	12.5	36.3	13.8
5	役所からのお知らせ	3	0	12	3	2	0
		3.8	0.0	15.0	3.8	2.5	0.0
6	中学校の先生	13	1	32	9	36	12
		16.3	1.3	40.0	11.3	45.0	15.0
7	中学校の事務室職員（学校事務職員）	3	2	13	3	4	2
		3.8	2.5	16.3	3.8	5.0	2.5
8	塾	8	4	4	2	22	7
		10.0	5.0	5.0	2.5	27.5	8.8
9	高校の学校説明会	49	30	18	7	38	18
		61.3	37.5	22.5	8.8	47.5	22.5
10	親戚	2	2	2	2	3	1
		2.5	2.5	2.5	2.5	3.8	1.3
11	友人	12	3	1	0	10	3
		15.0	3.8	1.3	0.0	12.5	3.8
12	役所の職員	2	1	4	2	1	0
	母子自立支援員	2.5	1.3	5.0	2.5	1.3	0.0
13	役所の職員	1	0	1	0	1	0
	生活保護ワーカー	1.3	0.0	1.3	0.0	1.3	0.0
14	役所の職員	5	0	12	4	5	1
	その他	6.3	0.0	15.0	5.0	6.3	1.3
15	役所の職員	1	0	2	0	0	0
	不明	1.3	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0
16	無回答	7		5		7	
		8.8		6.3		8.8	

5) 奨学金制度などや教育費助成・貸付制度の「認知度」と「利用状況」

**全体の 76.3%の人が、「東京都育英資金貸付事業」を、56.3%の人が「区市が行っている奨学金」を、52.5%の人が「私立高校等授業料軽減事業」を知っている。一方、利用状況については「東京都育英資金」が 16.3%、「区市が行う奨学金」が 12.5%であった。**

**また、利用しなかったが、できなかった制度が「ある」人は、全体の 36.3%。**

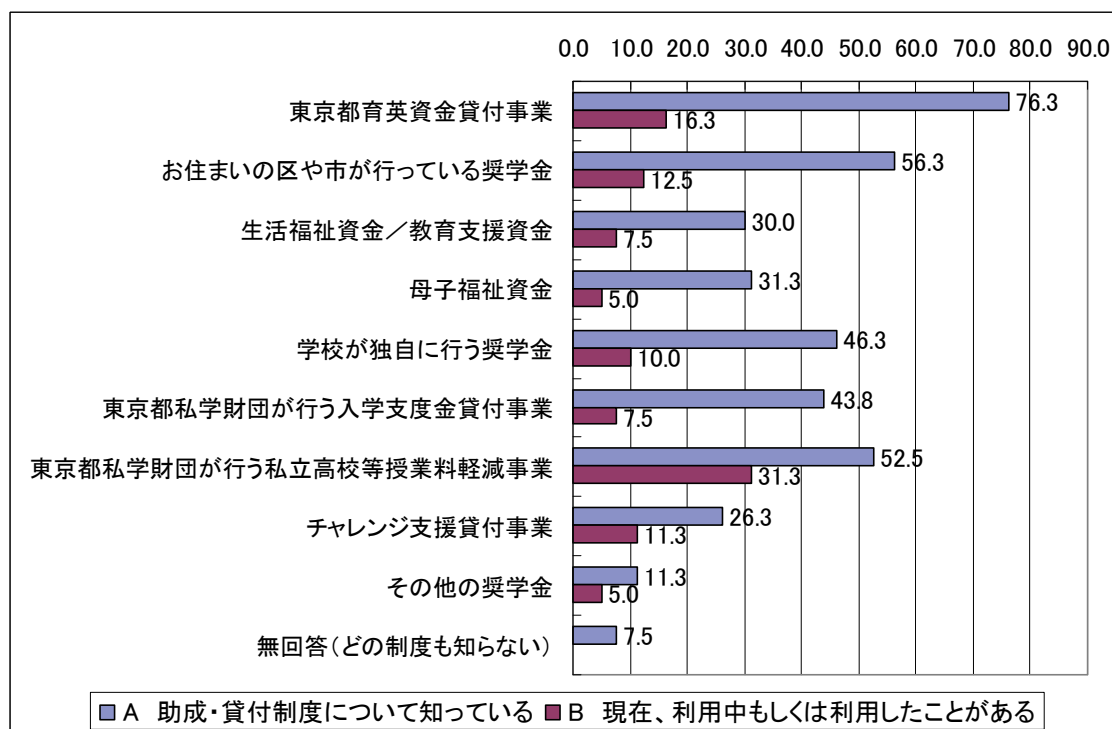
- あしなが奨学金以外の制度で、東京都内在住の方が利用可能な高校進学のための奨学金制度などや教育費の助成・貸付制度について、「知っているか」と「現在の利用状況」及び「利用しなかったが、利用できなかった制度の有無」についてたずねました。(表 11) (図 13) (図 14)
- 61 人(全体の 76.3%)が、「東京都育英資金貸付事業」を、45 人(56.3%)が「区市が行っている奨学金」を、42 人(52.5%)が「私立高校等授業料軽減事業」を知っていました。(表 11) (図 13)
- 一方、利用状況については「東京都育英資金」が 13 人(16.3%)、「区市が行う奨学金」が 10 人(12.5%)でした(表 11) (図 13)。
- なお、「私立高校授業料軽減事業」は、25 人が利用しており、私立高校へ通う人 39 人のうち、64.0%が利用しているという結果でした。
- 「東京都育英資金貸付事業」や「私立高校等授業料軽減事業」のように学校を窓口とした貸付や給付事業、自治体や学校で実施する奨学金制度への認知度は高い一方、低所得世帯の自立支援を目的に福祉制度として実施されている貸付事業等への認知度は低いと言えます。

表11 「知っている制度」と「現在、利用中もしくは利用したことがある制度」  
複数回答、N=80（上段：人、下段：％）

制度名称		A 助成・貸付 制度について 知っている	B 現在、利用 中もしくは利 用したことが ある
	全体	80	80
		100.0	100
1	東京都育英資金貸付事業	61	13
		76.3	16.3
2	お住まいの区や市が行っている奨学金	45	10
		56.3	12.5
3	生活福祉資金／教育支援資金	24	6
		30.0	7.5
4	母子福祉資金	25	4
		31.3	5.0
5	学校が独自に行う奨学金	37	8
		46.3	10.0
6	東京都私学財団が行う入学支度金貸付 事業	35	6
		43.8	7.5
7	東京都私学財団が行う私立高校等授業 料軽減事業	42	25
		52.5	31.3
8	チャレンジ支援貸付事業	21	9
		26.3	11.3
9	その他の奨学金	9	4
		11.3	5.0
	無回答（どの制度も知らない）	6	
		7.5	



図13 「知っている制度」と「現在、利用中もしくは利用したことがある制度」  
複数回答、N=80 (%)

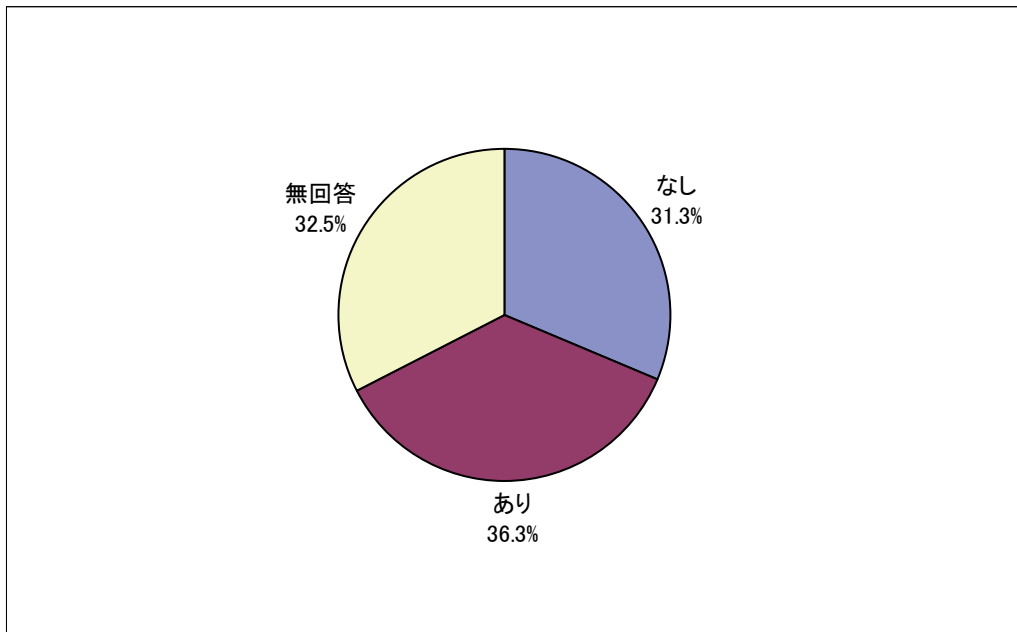


- 利用したかったが、できなかった制度が「ある」人は、29人で、全体の36.3%でした。(表12)(図14)
- 利用できなかった理由としては、「他制度を利用予定で併用不可と言われた」「保証人がたてられない」「返済の見通しがたてられない」「応募者多数、成績基準に満たない」といった意見のほか、外国籍で在留資格で対象外となったり、通信制高校のため対象外となったという理由があげられています。

表12 利用したかったが、利用できなかった制度 N=80 (人、%)

No.	利用できなかった制度の有無	n	%
1	なし	25	31.3
2	あり	29	36.3
	無回答	26	32.5
	全体	80	100.0

図14 利用したかったが、利用できなかった制度 N=80 (%)



6) どのような情報や相談先があったらよいと思うか（自由記述）

「奨学金のこと」や「進路選択」について情報を整理してくれる窓口、気軽に相談できる窓口を求める意見が寄せられた。中学の先生については、力になってもらえたという意見もあれば、きめ細かな情報が得られなかった経験をもつ人もいるが、大きな情報を得る先の一つになっていることがうかがえるとともに、確実な情報が得られる相談先が求められている。

ほしい情報や支援としては、「塾代貸付のこと」、「学費」、「二次募集や三次募集」といった情報やメンタル面での支援や「（経済的な困難を抱えながら）進学、就職した先輩の話」といった内容があげられている。

どのような情報や相談先があったらよいと思うか（自由記述・抜粋）

（相談先や支援の仕組みに関すること）

○親が子供を啓発できればベストだと思うが、子供自身が先生や友達などとの交流の中で意識が高められ、情報が得られたら良い。その上で相談して決めることができる。だから、子供がそういう交流の場に参加できる自然な教育の場があれば親は助かる。

○いつでも相談ができること。いろいろな手続きもそうですが、日曜日や夜間などの時間にあったら良いと思う。

○どうすれば自分（本人）のやりたい事（学校、進学）ができるようになるか、情報（方法）を知ることができる場があれば～。

○高校がたくさんあるので、ある程度しぼれる情報がほしい。それを教えていただける機関があればよい。

○就学相談や、支援情報などは、区役所などの行政で確かな情報が発信されることを希望。

○塾に行ける子は塾で相談できるが、そうでない子は学校の先生しか相談窓口がない。もっと窓口があればいいのにとと思う。

○奨学金の種類など、全体におおまかにわかる窓口。

○大学には行かせたいので、奨学金が受けられれば先が開けると思う。一括してそういう情報が受けられる所があると助かる。

○地方から東京に来ているため何も知らず、先生も何も気がつかず困って、どこに相談すれば良いかもわからなかった。地方と東京まったく違う。 同意見 1件。

○中学の先生がもっと奨学金の事をくわしく教えてくれたら良かった。学校情報等も自分でしらべて下さいと言われたが、体が悪くておもう様に動けなかったので、

どのような情報や相談先があったらよいと思うか（自由記述・抜粋）

気軽に相談できる場所がほしかった。 同意見 3件

- 中学校の先生が紹介してくれた団体主催の進学説明会の様な活動。
- 入試のシステムが複雑になってきているので、学校の先生がもっとわかりやすく説明、支援してほしい。
- 父親の代わりに子供が信頼して相談できる窓口。
- 母子家庭を把握している自治体からDMで支援を知らせてほしい。

（情報提供してほしいこと）

- メンタルな部分での支援、カウンセリングを受けたい。
- 学費の工面の方法
- 経済的に困難な中でも立派に勉強し続けて大学まで通っていたり、就職して活躍している先輩の情報はたくさんあればはげみになるし自信が付くと思います。
- 二男が高校受験を控えていて、塾のチャレンジ支援貸付を利用した。長男の時もあった制度だったそうだが、知らなかったため利用できなかった。もっと大きく知らせてほしい。東京都バス、都電の無料パスは遺族年金を受けていると利用できないと言われた。高校に通う交通費の助成、支援があったらありがたい。いろいろ支援がほしい。
- 公立の二次募集、三次募集についての情報があつたら安心だった。
- 私立学校へ行くことになった場合への相談や情報、サポートが充実していたら良いと思います。
- 都立高校を受験するために、どうしても学習塾に通う必要がありました。塾の費用が大変だったので貸りられる事を教えてほしかった。

（その他 改善してほしいこと）

- 経済的に厳しいので、公立に入れるのにあたり優先的に入れれば良いと思った。
- 幸いにして、自転車で通える近くの高校に入れたので、交通費がかからず、助かっていますが、もし、交通費が必要な場合は、その援助がないと、とても通いきれないだろうと思うので。その支援が必要と思います。
- 奨学金等の制度利用にあたり、いろんなところに電話をしました。もう3年前で忘れましたが、結局「あしなが育英会」のみしか利用できませんでした。「併用」「保証人」「借りてもすぐ返済しなければいけない」等で、支援先と現状の生活では一致しません。
- 利子のない支援があつたら。
- 連帯保証人が高齢の場合でもOKにしてほしい。※家もあるし、毎年税金を払っているのだから、年金も出ているため。

### (3) 高校卒業後のことについて

進路選択にあたり、先行調査等において家計の経済力が影響を及ぼすことが指摘されています。奨学金を利用して高校進学を果たした子どもたちの、高校卒業後の進路についての意向を把握しました。

#### 1) 子どもの高校卒業後の進路—「希望する進路」と「実際に可能性が高い進路」

**高校卒業後の「親として希望する進路」は、「4年制以上の国公立大学進学（昼間部）」が57.5%、「4年制以上の私立大学進学（昼間部）」が12.5%。「就職（正規職員）」は、8.8%である。また、「わからない」は5.0%。それに対して、「実際に可能性が高い進路」となると「就職（正規職員）」が11.3%に、「わからない」が12.5%に増える。**

**4年制以上の大学進学を「希望している」保護者は7割になるが、「実際に可能性が高い進路」となると55.1%に減る。**

- 高校卒業後の「希望する進路」と「実際に可能性が高い進路」についてたずね（図15）（表13）、また「実際に可能性が高い進路」だと思いう理由（複数回答）についてお聞きしました。（図16）（表14）
- 高校卒業後の「親として最も望ましい進路」は、「4年制以上の国公立大学進学（昼間部）」が46人（57.5%）、「4年制以上の私立大学進学（昼間部）」が10人（12.5%）で、7割の人が4年制以上の大学進学を望ましいと考えていました。「就職（正規職員）」は、7人（8.8%）、「わからない」は4人（5.0%）という結果になっています。（図15）（表13）
- それに対して、「実際に可能性が高い進路」となると「就職（正規職員）」が9人（11.3%）に、「わからない」が10人（12.5%）に増えます。また、国公立と私立あわせての「4年制以上の大学進学」は、44人（55.1%）に減ります。（図15）（表13）
- なお、前述（p.24）の先行調査、全国の東京大学大学院大学経営・政策研究センターによる「高校生の進路に関する調査」（2005）の保護者調査では、卒業後の子どもの進路希望について「可能性があるもの（複数回答）」と「最も望ましい（単答）」進路をたずねています。その結果によると、「大学への進学」を全体の67.0%の保護者が「可能性があるもの」と回答し、57.7%の保護者が「最も望ましい」と回答しており、本調査と同じ傾向を示しています。

- また、回答した進路が「実際に可能性が高い」と思う理由（複数回答）は、「子どもの希望」50人(62.5%)、「学力」30人(37.5%)、「就職に有利」19人(23.8%)、「学費の工面が難しい」18人(22.5%)と続きます。  
(図16) (表14)
- なお、先行調査「高校生の進路に関する調査」(2005)によると、大学進学率と親の年収について関連性があるという結果が出ています。また、既に子どもが高校卒業している保護者を対象に、現在よりも経済的ゆとりがあるとすれば、子どものために何をさせてあげたいかを尋ねています（複数回答）。「とくに現在の希望を変更することはない」という回答が最も多い一方、年収が低いほど「就職よりも進学」「短大・専門学校よりも4年制大学」という回答が多くなっている結果を得ており、先述の調査をもとにしたレポート「高校生の進路と親の年収の関連について」(2009年7月31日)では、進学をしたくてもできない子どもを支援する政策の必要性を示唆しています。  
(高校生の進路に関する調査 <http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/resource/crump090731.pdf>)

図 15 高校卒業後の進路—「希望する進路」と「実際に可能性が高いと思われる進路」

N=80 (人)

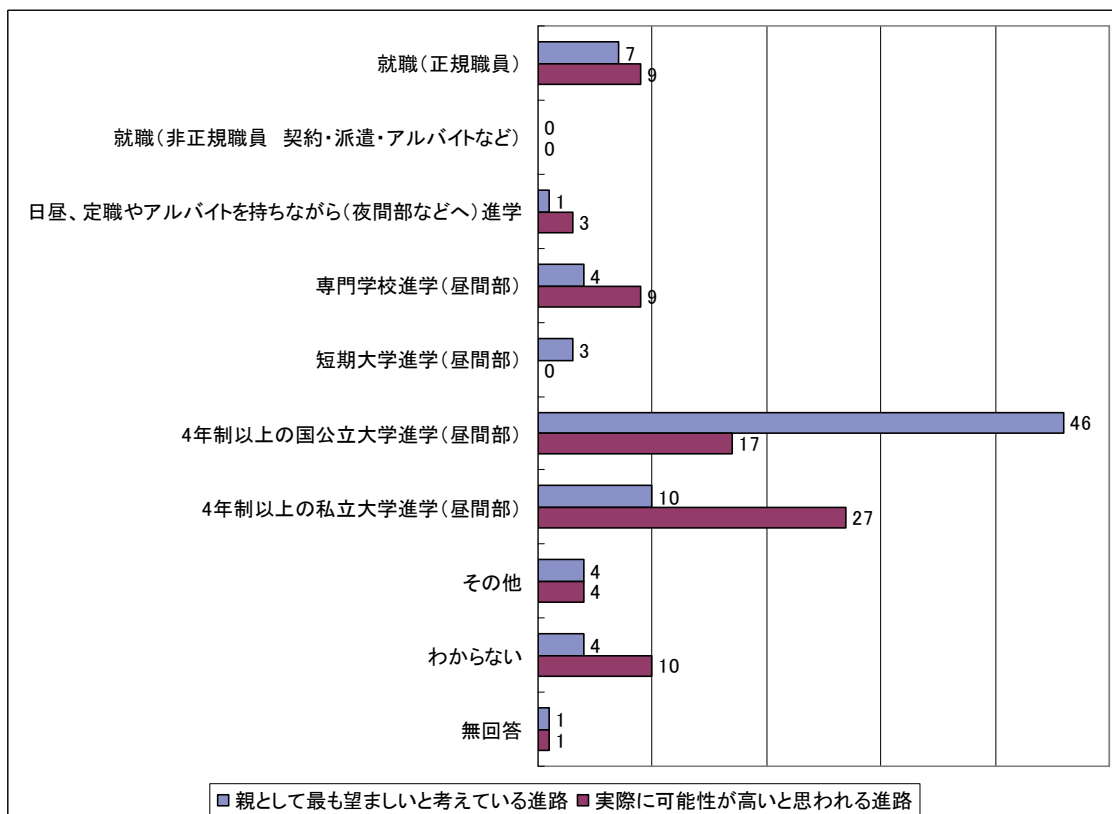


表 13 高校卒業後の進路—「希望する進路」と「実際に可能性が高いと思われる進路」

N=80(上段:人、下段:%)

単位 上段:人 下段:%	合計	実際に可能性が高いと思われる進路										
		就職 (正規職員)	就職 (非正規職員 契約・派遣・ アルバイトなど)	日昼、 定職や アルバイトを 持ちながら 進学	専門 学校 進学 (昼 間部)	短期 大学 進学 (昼 間部)	4年制 以上の 国公立 大学進 学(昼 間部)	4年制 以上の 私立大 学進学 (昼間 部)	その 他	わか らな い	不明	
全体	80 100.0	9 11.3	0 0.0	3 3.8	9 11.3	0 0.0	17 21.3	27 33.8	4 5.0	10 12.5	1 1.3	
親として最も望ましいと 考えている進路	就職(正規職員)	7 8.8	6 7.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3	0 0.0
	就職(非正規職員 契約・派遣・ アルバイトなど)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	日昼、定職 やアルバイトを 持ちながら 進学	1 1.3	0 0.0	0 0.0	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	専門学校 進学(昼間 部)	4 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	短期大学 進学(昼間 部)	3 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 2.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3	0 0.0
	4年制以上の 国公立 大学進学 (昼間部)	46 57.5	1 1.3	0 0.0	2 2.5	3 3.8	0 0.0	17 21.3	18 22.5	1 1.3	3 3.8	1 1.3
	4年制以上の 私立大 学進学(昼 間部)	10 12.5	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 8.8	0 0.0	2 2.5	0 1.3
	その他	4 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 2.5	1 1.3	1 1.3	0 1.3
	わからない	4 5.0	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3	2 2.5	0 1.3
	不明	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3	0 0.0	0 0.0



図16 「実際に可能性が高い」と思われる理由 複数回答、N=80 (%)

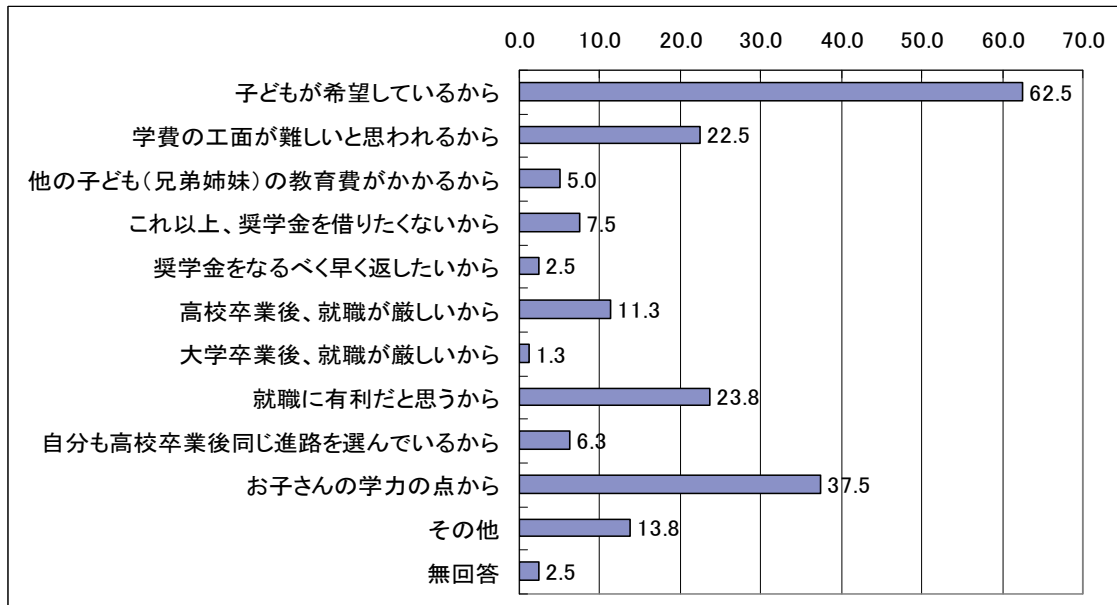


表14 「実際に可能性が高いと思う進路」と「その理由」

N=80 (上段：人、下段：%)

		「実際に可能性が高い」と思われる理由											
		子どもが希望しているから	学費の工面が難しいと思われるから	他の子ども(兄弟姉妹)の教育費がかかるから	これ以上、奨学金を借りたくないから	奨学金をなるべく早く返したいから	高校卒業後、就職が厳しいから	大学卒業後、就職が厳しいから	就職に有利だと思うから	自分も高校卒業後同じ進路を選んでいるから	お子さんの学力の点から	その他	無回答
全体		50 62.5	18 22.5	4 5.0	6 7.5	2 2.5	9 11.3	1 1.3	19 23.8	5 6.3	30 37.5	11 13.8	2 2.5
実際に可能性が高いと思われる進路	就職(正規職員)	4 5.0	5 6.3	2 2.5	2 2.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3	1 1.3	0 0.0
	就職(非正規職員 契約・派遣・アルバイトなど)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	日昼、定職やアルバイトを持ちながら(夜間部などへ)進学	1 1.3	3 3.8	0 0.0	2 2.5	1 1.3	1 1.3	0 0.0	2 2.5	1 1.3	3 3.8	1 1.3	0 0.0
	専門学校進学(昼間部)	6 7.5	2 2.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3	0 0.0	2 2.5	0 0.0	2 2.5	1 1.3	0 0.0
	短期大学進学(昼間部)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	4年制以上の国公立大学進学(昼間部)	15 18.8	4 5.0	2 2.5	2 2.5	1 1.3	2 2.5	0 0.0	5 6.3	2 2.5	9 11.3	3 3.8	0 0.0
	4年制以上の私立大学進学(昼間部)	19 23.8	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 3.8	0 0.0	7 8.8	2 2.5	10 12.5	1 1.3	1 1.3
	その他	3 3.8	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3	2 2.5	0 0.0	2 2.5	0 0.0	0 0.0
	わからない	1 1.3	2 2.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 2.5	0 0.0	1 1.3	0 0.0	3 3.8	4 5.0	1 1.3
	無回答	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

#### (4) 奨学金の返済について

奨学金の返済についてどのように考えているかをたずねました。

##### 1) 奨学金の返済

**奨学金を返済する人は、「子ども」が 42.5%、「親と子ども」が 33.8%、「親」が 17.5%という結果であった。(高校生アンケートでは、8割以上の子どもが「自分」もしくは「親と自分」が返済すると回答しており、「親」が返済はわずか 2.5%である。)**

- 奨学金を返済する人は、「子ども」が 34 人(42.5%)、「親と子ども」が 27 人(33.8%)、「親」が 14 人(17.5%)という結果でした。(図 17) (表 15)
- 高校生アンケートでも同様の質問をしていますが、奨学金を返済する人は、「自分」が 55 人 (69.6%)、「自分と親」が 15 人 (19.0%) であり、8割以上の子どもが自分自身が、将来的に返済していくことを意識しています。また、「親」が返済は 2 人 (2.5%) でした。保護者よりも子どもの方が、「子ども」だけで返していくという回答が多い結果になっています。(図 17) (表 15)
- 返済への見通しについては、返済についての考えは「見通しはたっていないが何とか返済できると思う」が 48 人 (60.0%)、「返済の見通しがたっている」が 17 人 (21.3%)。「返済についてはまだ考えていない」が 5 人 (6.3%)と続いています。一方、既に「返済の見通しがたたず、とても不安」と回答している保護者も 7 人 (8.8%) います(図 18) (表 16)

図 17 奨学金の返済予定者

保護者 N=80、高校生 N=79 (%)

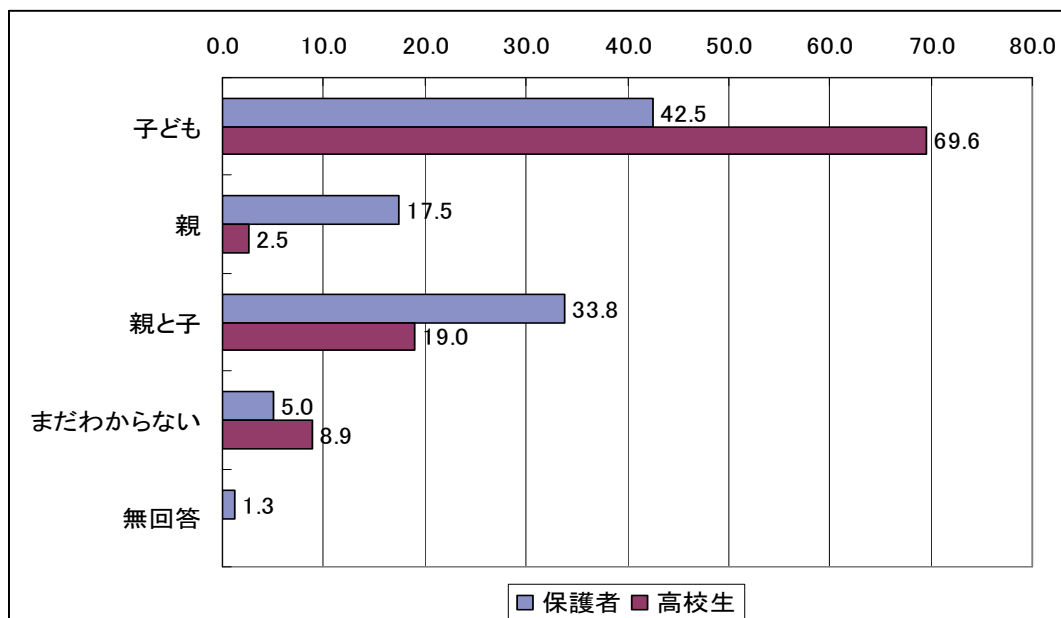


表 15 奨学金の返済予定者

保護者 N=80、高校生 N=79 (上段：人、下段：%)

No.	返済予定者	保護者	高校生
1	子ども (高校生)	34	55
		42.5%	69.6%
2	親	14	2
		17.5%	2.5%
3	親と子	27	15
		33.8%	19.0%
4	まだわからない	4	7
		5.0%	8.9%
5	その他	0	0
		0.0%	0.0%
6	無回答	1	0
		1.3%	0.0%
	全体	80	79
		100.0%	100.0%

図 18 奨学金の返済について 保護者 N=80、高校生 N=79 (%)

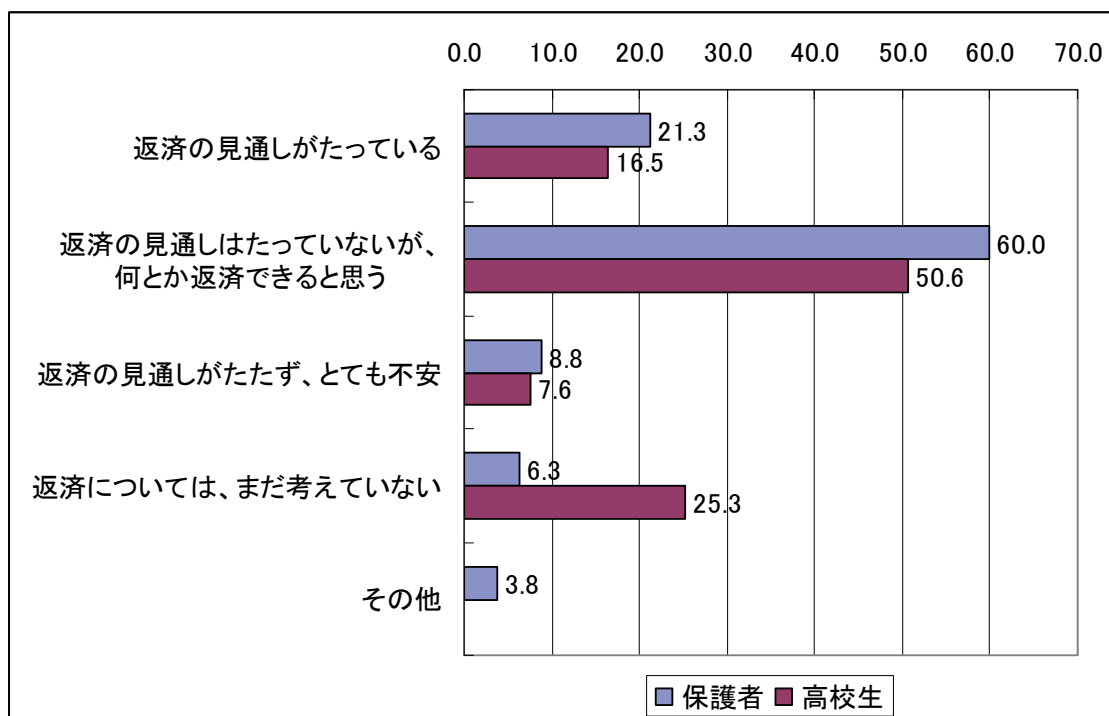


表 16 奨学金の返済について 保護者 N=80、高校生 N=79(上段:人、下段:%)

No.	返済の見通し	保護者	高校生
1	返済の見通しがたっている	17	13
		21.3%	16.5%
2	返済の見通しはたっていないが、何とか返済できると思う	48	40
		60.0%	50.6%
3	返済の見通しがたらず、とても不安	7	6
		8.8%	7.6%
4	返済については、まだ考えていない	5	20
		6.3%	25.3%
5	その他	3	0
		3.8%	0.0%
6	無回答	0	0
		0.0%	0.0%
	全体	80	79
		100.0%	100.0%

## 第 3 章

### 課題提起と提言

## 第3章 課題提起と提言

### ～アンケート結果を通じてみえてきた課題～

#### 1. 生活環境に左右されない教育の機会と修学の保障を

##### ◆学費負担が子どもの進学への気持ちに重く影を落としている

「高校生アンケート」では、高校進学を考える時、心配だったこととして、全体の21.5%（つまり4人に1人）の子どもが「高校の学費（入学金や授業料など）が心配」という結果が出ています。また、高校を選択するうえで「一番行きたい学校を選んだ理由」としても7割の子どもが「金銭的に大丈夫だから」をあげています。

通常、親の悩みと考えられている「学費」が子ども自身の進路選択にも大きな影を落としている状況がみられました。

##### ◆奨学金を利用しても学費調達が厳しい

「保護者アンケート」で、子どもの中学卒業後の進路を考えるうえで、困っていたことの自由記述では、授業料や授業料以外の入学金をはじめとする学校納付金、定期代や部活、修学旅行などの費用に対する負担を心配する意見が多く寄せられました。とりわけ私立高校の学費負担を心配する意見も多く寄せられました。私立高校は「奨学金を利用しても賄えない」という声もあります。

あしなが育英会が2009年7月に実施した調査においても、6月現在の平均収入は11万6千円にまで減少し、家計赤字は3万1千円に増え、「教育費が不足している」52.0%、「1つの奨学金だけでは進学させられない」47.2%という結果が出ています。

以上のような状況におかれた子どもたちは、その家庭環境から進学を前向きに考えられずあきらめてしまうことがあります。

しかし、世帯の収入状況により、受けられる教育に格差が生まれ、それが将来にも影響を及ぼします。この社会的不利の継承を断ち切るためにも、すべての子どもに教育の機会と修学の保障がされるべきであると考えます。

## 2. 教育費に関する相談支援を

「保護者アンケート」で、自由記述でうかがった「どのような情報や相談先があったらよいか」では、「情報そのもの」と「情報を整理してくれる人、アドバイスをくれる人」を求める意見が寄せられています。

「奨学金や貸付金の情報」については特に相談先がないとされています。また、個々の奨学金や貸付金により、細かい要件が定められていますが、現状はトータルに情報提供する窓口がなく、個別に相談をしなければなりません。また、こうした相談や必要書類をそろえるという作業もすべて仕事の合間をぬってしなければならず、いろいろ相談や問い合わせをした末に、奨学金を受けられないという結果になることもあり、時間的なロスも大きくなっています。特にひとり親の場合はすべて1人で手続きをおこなわなければならない、保護者への負担が大きくなっています。

### ◆奨学金・貸付金の利用にあたっての支援

情報を入手するとともに、情報を活用できるようにする支援も必要です。例えば、奨学金を利用し、学校へ行くまでには、①どんな奨学金があるかなどの「情報」を入手する、②どの奨学金がいいのか（使えるのか）を検討し、申し込む。といった①と②の手順を踏みます。

現状は①については、学校から周知されたり、奨学金・貸付金の実施機関が個別に周知したりしています。そして②については奨学金・貸付金の実施機関が手続きを進めていくうえで、支援している場合もありますが、あくまで実施機関の制度利用が前提の支援になっています。情報を整理しわかりやすく提供する窓口が求めれます。

## 3. 高校へ進学するにあたって必要な支援とは

### ～社会的不利を負う子どもの気持ちに寄り添う支援～

「高校生アンケート」で、自由記述で尋ねた「高校進学できる・進学しよう」と思ったきっかけでは、「当然のことと考えていた」という意見もある一方で、「将来への希望、学校への期待」といった積極的な意見が多くありました。また、「他の人からのアドバイス」により、励まされ進学へ向かった声が寄せられており、身近な人の声が進学に対し前向きになるきっかけとなった例が少なからずあることがうかがえました。

### ◆子どもが負っている社会的不利により進学をあきらめさせない～

「塾に通えない」、「不登校」、「親の教育への無関心」、「家庭学習の習慣がない」など、子どもたちが社会的不利を肌で感じとって、「進学をあきらめる」という選択をさせないよ



う、支援が必要です。

都内の数箇所の地区では、ボランティアによる無料の学習支援の場ができています。かけ算の九九や四則計算などが習得できていない子どもたちもいますが、単に学力向上だけを目的としているのではなく、進学や将来への動機づけを行い、自己肯定感を持ってもらえるような経験につながるよう支援しています。幼い頃から負ってきた社会的不利から、自己肯定感（有用感）の低い子どもが多くいます。気持ちに寄り添った支援を行う身近な存在が求められ、高校進学モデルとなる人がいることは、子どもたちの気持ちを進学へ向かわせるために有効です。地域社会の中にこうした存在とつながる場を作っていくことが求められます。

## ～今後に向けて～

プロジェクトでは、奨学金利用者へのアンケートの他、東京都内の教育委員会、中学校、福祉事務所へ調査等を実施しました。

福祉事務所では、26区市の福祉事務所で高校進学支援のための自立支援プログラムが策定され実施されていますが、福祉事務所に対しては、生活保護世帯の中学3年生への高校進学支援の実態を把握するため調査を実施しました。また、被保護世帯を含めた低所得世帯の子どもたちへの支援の現状を把握するため、教育委員会と中学校への調査を実施しました。

これらの調査を通じて、福祉分野と教育分野の関係機関がどのように連携し低所得世帯の子どもたちへの情報提供と支援を構築していけばよいかについて更なる検討を重ねていきます。

## 資料編

## 高校進学のために必要な情報と支援についてのアンケート【高校生用】

### 実数記入

〆切 平成23年1月11日(月)まで  
問合せ先 東京都社会福祉協議会 総務部 堀口・土屋・宮沢  
TEL 03(3268)7171

#### ◆あなた自身のことについておたずねします◆

問1 お住まい(※あてはまるものに○)

1. 23区内(41人)                      2. 市部、西多摩郡、島しょ(37人)                      (無回答1人)

問2 性別(※あてはまるものに○)                      1. 男(45人)                      2. 女(32人)                      (無回答2人)

問3 学年 ( )年生 (※ご記入下さい)

- 1年生(35人)                      2年生(19人)                      3年生(23人)                      (無回答2人)

問4 いっしょにくらしている人(※あてはまるものすべてに○)

1. 父(24人)                      2. 母(69人)                      3. 祖母(17人)                      4. 祖父(11人)  
5. 兄(18人)                      6. 姉(25人)                      7. 弟(19人)                      8. 妹(15人)                      9. その他(1人)

問5 あなたがいま通っている高校についてうかがいます。

A. 国公立ですか、私立ですか。

1. 国公立(40人)                      2. 私立(36人)                      (無回答3人)

B. 学校の種類は何ですか。

1. 全日制高校(普通科)                      (65人)  
2. 全日制高校(専門学科)                      (2人)  
3. 全日制高校(総合学科)                      (3人)  
4. 高等専門学校                      (2人)  
5. 定時制高校夜間部                      (2人)  
6. 定時制高校夜間部以外                      (1人)  
7. 通信制高校と高等専門学校                      (1人)  
8. 通信制高校とサポート校                      (1人)  
9. 専修学校(高等課程)                      (0人)  
10. その他                      (0人)                      (無回答2人)

#### ◆あなたの高校受験についておたずねします。中学生の頃を思い出してお答えください。

\*中高一貫校在学のため、高校受験をしなかった方は、問10に進んでください。

問6 あなたは、高校受験のためにどのように勉強しましたか。(※あてはまるものすべてに○)

1. 塾に通った                      (47人)  
2. 家庭教師に習った                      (6人)  
3. 通信教育を利用した                      (10人)  
4. 学校で行われている補習等を利用した                      (10人)  
5. 1～4は利用しなかった                      (11人)  
6. その他                      (2人)                      (無回答7人)

問7 あなたが現在、通っている高校は、受験した学校の中で第1希望の学校でしたか。

(※あてはまるものに1つに○)

1. 第1希望の学校                      (51人)  
2. 第1希望以外の学校                      (21人)                      (無回答7人)

問8 (1) 中3になった初めの頃に「一番行きたかった学校」、(2) 実際に「受験をした学校」についておたすねします。

	A. 国公立か 私立か	B. 学校の種類
問8- (1) 中3になった初めの頃に 「一番行きたかった学校」 はどこでしたか	A 国公立ですか、私立ですか (※あてはまるもの1つに〇)  1. 国公立 (61人)  2. 私立 (8人) (無回答 10人)	B 学校の種類は何ですか。 (※あてはまるもの1つに〇) 1. 全日制高校(普通科) (59人) 2. 全日制高校(専門学科) (3人) 3. 全日制高校(総合学科) (3人) 4. 高等専門学校 (2人) 5. 定時制高校夜間部 (0人) 6. 定時制高校夜間部以外 (1人) 7. 通信制高校と高等専門学校 (0人) 8. 通信制高校とサポート校 (0人) 9. 専修学校(高等課程) (0人) 10. その他 (3人) (無回答 8人)

問8- (2) 受験した学校についておしえてください。	A 受験した高校の数を教えてください。 0の場合は0とご記入ください。	B 学校の種類は何ですか。 (※あてはまるものすべてに〇)																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>国公立</th> <th>私立</th> <th>合計の 学校数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1校</td> <td>46</td> <td>40</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>2校</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>3校</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>4校</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>5校</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>15</td> <td>25</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>		国公立	私立	合計の 学校数	1校	46	40	26	2校	9	4	27	3校	1	2	8	4校	0	1	2	5校	0	0	1	無回答	15	25	15
	国公立	私立	合計の 学校数																										
1校	46	40	26																										
2校	9	4	27																										
3校	1	2	8																										
4校	0	1	2																										
5校	0	0	1																										
無回答	15	25	15																										



問8- (3) 受験した学校の中で一番行きたかった学校の種類は何でしたか。 上記の問8- (2) Bの1~10の選択肢の中で、ひとつ選んでご記入ください。	1. 全日制高校(普通科) (54人) 2. 全日制高校(専門学科) (4人) 3. 全日制高校(総合学科) (4人) 4. 高等専門学校 (2人) 5. 定時制高校夜間部 (0人) 6. 定時制高校夜間部以外 (2人) 7. 通信制高校と高等専門学校 (1人) 8. 通信制高校とサポート校 (0人) 9. 専修学校(高等課程) (0人) 10. その他 (1人) (無回答 11人)
--	---

問9 あなたは「受験する学校の中で一番行きたかった学校」をどのような理由で選びましたか。「とてもあてはまる」から「全くあてはまらない」の中で、自分の気持ちに最も近いものにそれぞれ○をつけてください。

		はまる	とてもあて	あてはまる	まあまあ	あまりあて	はまらない	まらな	全くあては	無回答
1	自分のやりたいこと（勉強のカリキュラム、クラブ活動など）があった学校だったから	1 (28)		2 (29)		3 (13)		4 (1)		(8)
2	自分の成績で入れそうな学校だったから	(29)		(31)		(10)		(1)		(8)
3	先生・親（保護者）にすすめられたから	(11)		(31)		(19)		(10)		(8)
4	先輩や友人と同じ学校だから	(5)		(7)		(19)		(40)		(8)
5	就職に有利だと思ったから	(11)		(15)		(20)		(24)		(9)
6	（高校卒業後の）進学に有利だと思ったから	(23)		(23)		(18)		(7)		(8)
7	学校の雰囲気が入ったから	(24)		(32)		(11)		(4)		(8)
8	金銭的に大丈夫だと思ったから	(29)		(25)		(10)		(7)		(8)

問10 中学生のときに、「高校に進学しない、あるいは進学できない」と思った時期はありましたか。（※あてはまるものに○）

1. あった（→問11へ）（17人）      2. なかった（→問12へ）（62人）

問11 あなたが高校進学をしようと決めたのはいつでしたか。

年生の	月頃
中学1年	(2人)
中学2年	(4人)
中学3年4月～7月	(7人)
中学3年8月～12月	(3人)
中学3年1月～3月	(1人)

問12 高校進学を考えると、どのようなことを、心配したり悩んだりしましたか。（※あてはまるものすべてに○）

1. 高校の学費（入学金や授業料など）が心配だった (42人)
2. 受験の費用が心配だった (13人)
3. 行きたい学校に学力がとどかない (28人)
4. 塾へ通っていなかったので心配だった (8人)
5. 受験の勉強をどのようにしてよいかわからなかった (29人)
6. 先生に進学できる学校がないと言われた (3人)
7. 保護者が進学を望んでいないようだった (0人)
8. 特に心配や悩みはなかった (13人)
9. その他 (2人) (無回答4人)

問13 中学生のときに高校進学するにあたって、あなたが、相談したり、アドバイスをくれたりした人はだれですか。(※あてはまるものすべてに○)

- 1. 中学校の先生 (51人)
- 2. 塾や家庭教師の先生 (41人)
- 3. 親(保護者) (53人)
- 4. 兄弟姉妹 (22人)
- 5. 親戚 (6人)
- 6. 友達 (22人)
- 7. 役所の人 (0人)
- 8. その他 (3人)
- 9. 特にいない (4人)
- 10. 必要なかった (1人)

問14 あなたが、最終的に「高校進学できる・進学しよう」と思ったきっかけや理由は何ですか。できるだけ詳しく教えてください。

**◆高校卒業後のことについておたずねします**

問15 高校卒業後の進路はどのように考えていますか。A「学校がある場所(所在地)、学力、学費などの色々な条件を考えずに希望する進路」、B「実際に可能性が高い進路」、それぞれにあてはまるもの1つに○をしてください。

＜高校卒業後の進路＞	問15-A	問15-B
1. 就職(正規職員)	(5人)	(8人)
2. 就職(非正規職員 契約・派遣・アルバイトなど)	(0人)	(0人)
3. 日雇、定職やアルバイトを持ちながら(夜間部などへ)進学	(1人)	(0人)
4. 専門学校進学(昼間部)	(12人)	(14人)
5. 短期大学進学(昼間部)	(1人)	(1人)
6. 4年制以上の国公立大学進学(昼間部)	(30人)	(19人)
7. 4年制以上の私立大学進学(昼間部)	(24人)	(27人)
8. その他( )	(1人)	(1人)
9. わからない	(2人)	(6人)
	(無回答3人)	(無回答3人)

問15-A 希望する進路は何ですか(上から1つだけ選んで記入) →

問15-B 実際に可能性が高い進路は何ですか(上から1つだけ選んで記入) →

問15-C 問15-Bで回答した進路が「実際に可能性が高い」と思うのはなぜですか。  
(※あてはまるものすべてに○)

1. 学力の点から (35人)
2. 学費の工面が難しいと思われるから (18人)
3. 他の兄弟に教育費がかかるから (5人)
4. これ以上、奨学金を借りたくないから (2人)
5. 奨学金をなるべく早く返したいから (4人)
6. 高校卒業後の就職が厳しいから (17人)
7. 大学卒業後の就職が厳しいから (4人)
8. 就職に有利だと思うから (30人)
9. 親(保護者)が、高校卒業後に進んだ進路だから(親(保護者)と同じだから) (5人)
10. 周りの友達と同じ希望だから (3人)
11. その他 (5人) (無回答3人)

問16 将来、奨学金はどなたが返済していくご予定ですか。(※あてはまるものに1つに○)

1. 自分 (55人)
2. 親(保護者) (2人)
3. 自分と親(保護者) (15人)
4. まだわからない (7人)
5. その他 ( )

問17 今後、奨学金を返済していくことをどう考えていますか。(※あてはまるものに1つに○)

1. 返済の見通しがたっている (13人)
2. 返済の見通しはたっていないが、何とか返済できると思う (40人)
3. 返済の見通しがたたず、とても不安 (6人)
4. 返済については、まだ考えていない (20人)
5. その他 ( )

問18 進学、受験に悩んでいる中学生、これから悩んでいく中学生にどのようなサポート・情報が必要だと思いますか。あなたの意見を自由に書いてください。

( )

問19 いま、進学、受験に悩んでいる中学生にメッセージをお願いします。

( )

ご協力ありがとうございました。

この内容に関するお問合せは、東京都社会福祉協議会 総務部企画担当 堀口・土屋・宮沢  
Tel: 03-3268-7171 FAX: 03-3268-7433 までご連絡ください。

※ご不便をおかけいたしますが、平成22年12月29日(水)～平成23年1月3日(月)までは、年末年始休業期間となります。

**高校進学のために必要な情報と支援についてのアンケート（保護者用）**

※切 平成23年1月11日（月）まで  
 問合せ先 東京都社会福祉協議会 総務部 堀口・土屋・宮沢  
 TEL 03(3268)7171

**実数記入**

問1 お住まいはどちらですか（※あてはまるものに1つ〇）

1. 23区内（42人）      2. 市部、西多摩郡、島しょ（38人）

問2 性別（※あてはまるものに〇） 1. 男（18人） 2. 女（60人） （無回答2人）

問3 - ① お子さんは何人いらっしゃいますか。 → (                      )人

（「1人」16人 「2人」34人 「3人」18人 「4人以上」12人）

② そのうち生計をともにしているお子さんは何人いらっしゃいますか。（通学のため別居しているが、仕送り等で生活されているお子さんは含めてください） → (                      )人

（合計 173人、平均 2.2人）

**◆ お仕事と暮らしむきについてうかがいます ◆**

問4 あなたの現在の月々の収入はいくらぐらいですか。おさしつかえなければお答えください。

1. あなたのお仕事による毎月の収入（手取りで） 約 \_\_\_\_\_ 円

（合計 10,201,600円 平均 154,570円）

2. 遺族年金、児童扶養手当、生活保護費などによる1ヶ月あたりの給付額

約 \_\_\_\_\_ 円 （合計 8,084,860円 平均 107,798円）

問5 現在どのような働き方をしていますか。お仕事を2つ以上されている方は、B「A以外のお仕事」の欄にもご記入ください。

	A<全員回答してください>	B<お仕事を2つ以上されている方のみ回答>
	「主なお仕事について」 (あてはまるもの <u>1つ</u> に〇)	「A以外のお仕事について」 (あてはまるもの <u>すべて</u> に〇)
1. 正社員・正規職員	(13人)	(0人)
2. パート・アルバイト	(18人)	(7人)
3. 嘱託・契約社員	(11人)	(3人)
4. 人材派遣会社の派遣社員	(2人)	(0人)
5. 自営業主	(8人)	(3人)
6. 自営業の手伝い（家族従事者）	(3人)	(0人)
7. パソコンなどを使っての在宅ワーク	(0人)	(0人)
8. 家庭内で内職	(0人)	(1人)
9. 仕事はしていないが、探している	(7人)	(0人)
10. 仕事はしていない	(11人)	(0人)
無回答	(7人)	(69人)



これ以降の質問については、あしなが奨学金を受けていらっしゃるお子さんについてお答えください。(ご兄弟で受けていらっしゃる場合には、下のお子さんについてご記入ください。以降の質問も、下のお子さんについてお答えください)

問6 あしなが奨学金を受けていらっしゃるお子さんの学年と性別をご記入ください。(ご兄弟で受けていらっしゃる場合には、下のお子さんについてご記入ください。)

→ 高校( )年 、性別 男 ・ 女

1年生(35人) 2年生(21人) 3年生(24人) 男(47人) 女(31人)

問7-A お子さんの通っている学校は(※あてはまるもの1つに○)

1. 国公立(39人) 2. 私立(39人) (無回答2人)

問7-B お子さんの通っている学校の種類は(※あてはまるもの1つに○)

1. 全日制高校(普通科) (65人)
2. 全日制高校(専門学科) (4人)
3. 全日制高校(総合学科) (3人)
4. 高等専門学校 (2人)
5. 定時制高校夜間部 (2人)
6. 定時制高校夜間部以外 (1人)
7. 通信制高校と高等専門学校 (1人)
8. 通信制高校とサポート校 (0人)
9. 専修学校(高等課程) (0人)
10. その他 (0人) (無回答2人)

問8 あなたが、お子さんの中学卒業後の進路を考えていくうえで、困っていたことはどんなことですか。

【経済面で困っていたこと】

( )

【経済面以外で困っていたこと】

( )

問9 お子さんは、高校受験のためにどのように勉強しましたか。(※あてはまるものすべてに○)

1. 塾に通った (50人)
2. 家庭教師に習った (4人)
3. 通信教育を利用した (8人)
4. 学校で行われている補習等を利用した (15人)
5. 1～4は利用しなかった (10人)
6. その他 (12人)

◆ お子さんの進路を考えると必要な情報の入手についてうかがいます ◆

問10-1 次のア～シの項目の中で、お子さんの進路を考える上で、「(1) 第一希望の願書提出前に、どの程度、情報が得られていましたか」、「(2) 受験を振り返ってみて、その情報は願書提出前にどの程度、必要だったと思いますか」。ア～シの(1)、(2)でそれぞれのあてはまるところに1つずつ○をつけてください。

		(1) 情報が得られていたかの度合い (第一希望の願書提出前に、どの程度、情報が得られていましたか)					(2) 必要な度合い (受験を振り返って、願書提出前にその情報をどの程度知っておいたらよかったと思うか)				
		1 十分に 得られていた	2 ある程度 得られていた	3 あまり 得られなかった	4 まったく 得られなかった	無回答	1 絶対に必要	2 あった方がよい	3 あまり必要ない	4 必要ない	無回答
<b>例</b>	入学金・授業料などの費用のこと	○	2	3	4		○	2	3	4	
学費のことについて	ア. 入学金・授業料などの費用のこと	(32)	(35)	(8)	(3)	(2)	(66)	(13)	(0)	(0)	(1)
	イ. 入学金・授業料以外に学校でかかる費用のこと	(14)	(30)	(27)	(9)	(0)	(58)	(22)	(0)	(0)	(0)
	ウ. 自分が借りられる(うけられる)奨学金の種類	(9)	(45)	(22)	(4)	(0)	(59)	(21)	(0)	(0)	(0)
	エ. 奨学金をいくら借りられるか(うけられるか)	(12)	(40)	(22)	(5)	(1)	(57)	(23)	(0)	(0)	(0)
	オ. 奨学金を借りた場合、将来いくら返せばよいのか	(11)	(39)	(23)	(6)	(1)	(59)	(20)	(1)	(0)	(0)
学校・入試情報について	カ. 全日制高校(国公立)の学校・入試の情報	(24)	(36)	(12)	(2)	(6)	(52)	(21)	(0)	(1)	(6)
	キ. 全日制高校(私立)の学校・入試の情報	(22)	(29)	(21)	(2)	(6)	(42)	(28)	(4)	(0)	(6)
	ク. 定時制高校の学校・入試情報	(6)	(15)	(24)	(23)	(12)	(19)	(31)	(9)	(10)	(11)
	ケ. 通信制高校の学校・入試情報	(6)	(10)	(25)	(26)	(13)	(18)	(30)	(10)	(10)	(12)
	コ. サポート校の学校・入試情報	(5)	(7)	(29)	(25)	(14)	(17)	(30)	(11)	(10)	(12)
	サ. 二次募集、三次募集に関する入試情報	(5)	(16)	(27)	(19)	(13)	(21)	(37)	(3)	(7)	(12)
	シ. 調査書(内申書)など入試の仕組みに関する情報	(12)	(34)	(18)	(6)	(10)	(42)	(22)	(3)	(4)	(9)

問10-2 A「入学金・授業料以外にかかる費用」、B「奨学金制度」、C「学校・入試情報」それぞれについて、「調べた方法や問合せをした人」すべてに○をしてください。また、その中で役立った方法や問合せ先については◎にしてください。（※あてはまるものすべて○と◎）

	1. 雑誌	2. 本	3. 携帯サイト	4. インターネット(パソコン)	5. 役所からのお知らせ	6. 中学校の先生	7. 中学校の事務室職員(学校事務職員)	8. 塾	9. 高校の学校説明会	10. 親戚	11. 友人	12. 役所の職員から↓ ア. 母子自立支援員 イ. 生活保護ワーカー ウ. その他不明	エ. 不明	無回答		
<b>回答例</b>		○				○		◎	○	◎		○				
A 入学金や授業料以外にかかる費用について	(4)	(25)	(2)	(26)	(3)	(13)	(3)	(8)	(49)	(2)	(12)	(2)	(1)	(5)	(1)	(7)
B 奨学金制度に関すること	(2)	(8)	(1)	(24)	(12)	(32)	(13)	(4)	(18)	(2)	(1)	(4)	(1)	(12)	(2)	(5)
C 学校・入試情報	(3)	(23)	(2)	(29)	(2)	(36)	(4)	(22)	(38)	(3)	(10)	(1)	(1)	(5)	(0)	(7)

◆ 奨学金制度・教育費助成・貸付制度についてうかがいます ◆

問11 あしなが奨学金の制度以外の次の奨学金制度や教育費の助成・貸付制度について、知っていますか。知っている制度はA欄に○をし（名前だけでも知っている場合には、「知っている」とします。）、その中で「現在利用中もしくは利用したこと」がある制度についてはB欄に○をしてください。（※あてはまるものすべてに○）

	A 助成・貸付制度について知っている	B 現在、利用中もしくは利用したことがある
<b>回答例</b>	○	○
1. 東京都育英資金貸付事業（*参考 学校にて申込受付）	(61人)	(13人)

2. お住まいの区や市が行っている奨学金	(45人)	(10人)
3. 生活福祉資金／教育支援資金（*参考 お住まいの地区の社会福祉協議会で申込受付）	(24人)	(6人)
4. 母子福祉資金（*参考 お住まいの地区にて申込受付）	(25人)	(4人)
5. 学校が独自に行う奨学金	(37人)	(8人)
6. 東京都私学財団が行う入学支度金貸付事業（*参考 私立校の入学時に必要な費用を貸付）	(35人)	(6人)
7. 東京都私学財団が行う私立高校等授業料軽減事業（*参考 私立校の授業料を一部助成）	(42人)	(25人)
8. チャレンジ支援貸付事業（*参考 学習塾や高校、大学の受験費用の貸付）	(21人)	(9人)
9. その他の奨学金→（名称）	(9人)	(4人)
無回答（どの制度も知らない/利用していない）	(6人)	(34人)

問12 問11の選択肢にあるあしなが奨学金の制度以外の奨学金制度等や教育費の助成・貸付制度の中で、利用したかったが、利用できなかったものがありますか。あてはまる番号に○をし、「ある」を選んだ場合には、利用できなかった制度と利用できなかった理由についておきかせください。

1. なし (25人)      2. ある (29人)      (無回答 26人)

A. 利用できなかった制度 問11の選択肢の番号をご記入下さい（いくつでも）	B. 利用できなかった理由

- 1. 東京都育英資金貸付事業 (15人)
- 2. お住まいの区や市が行っている奨学金 (11人)
- 3. 生活福祉資金/教育支援資金 (1人)
- 4. 母子福祉資金 (2人)
- 5. 学校が独自に行う奨学金 (1人)
- 6. 東京都私学財団が行う入学支度金貸付事業 (4人)
- 7. 東京都私学財団が行う私立高校等授業料軽減事業 (2人)
- 8. チャレンジ支援貸付事業 (3人)
- 9. その他の奨学金 (3人)

(無回答 2人)

問13 お子さんの中学卒業後の進路を考えるうえで、どのような情報や相談先、支援があったらよいと思われましたか。ご自由にご記入ください。

( )

◆ お子さんの高校卒業後の進路についてうかがいます ◆

問14 お子さんの高校卒業後の進路として「A 親として最も望ましいと考えている進路」と「B 実際に可能性が高い進路」として、あてはまるもの1つに○をして下さい。

<p>問14-A</p> <p><b>親として最も望ましいと考えている進路</b></p>	<p>1. 就職（正規職員） (7人)</p> <p>2. 就職（非正規職員 契約・派遣・アルバイトなど） (0人)</p> <p>3. 日昼、定職やアルバイトを持ちながら（夜間部などへ）進学 (1人)</p> <p>4. 専門学校進学（昼間部） (4人)</p> <p>5. 短期大学進学（昼間部） (3人)</p> <p>6. 4年制以上の国公立大学進学（昼間部） (46人)</p> <p>7. 4年制以上の私立大学進学（昼間部） (10人)</p> <p>8. その他（ ） (4人)</p> <p>9. わからない (4人)</p> <p>無回答 (1人)</p>
<p>問14-B</p> <p><b>実際に可能性が高いと思われる進路</b></p>	<p>1. 就職（正規職員） (9人)</p> <p>2. 就職（非正規職員 契約・派遣・アルバイトなど） (0人)</p> <p>3. 日昼、定職やアルバイトを持ちながら（夜間部などへ）進学 (3人)</p> <p>4. 専門学校進学（昼間部） (9人)</p> <p>5. 短期大学進学（昼間部） (0人)</p> <p>6. 4年制以上の国公立大学進学（昼間部） (17人)</p> <p>7. 4年制以上の私立大学進学（昼間部） (27人)</p> <p>8. その他（ ） (4人)</p> <p>9. わからない (10人)</p> <p>無回答 (1人)</p>

問15 問14-Bで回答した進路が「実際に可能性が高い」と思われるのはなぜですか。

（※あてはまるものすべてに○）

1. 子どもが希望しているから (50人)
2. 学費の工面が難しいと思われるから (18人)
3. 他の子ども（兄弟姉妹）の教育費がかかるから (4人)
4. これ以上、奨学金を借りたくないから (6人)
5. 奨学金をなるべく早く返したいから (2人)
6. 高校卒業後、就職が厳しいから (9人)
7. 大学卒業後、就職が厳しいから (1人)
8. 就職に有利だと思うから (19人)
9. 自分も高校卒業後同じ進路を選んでいるから (5人)
10. お子さんの学力の点から (30人)
11. その他 (11人)
- 無回答 (2人)

◆ 奨学金・貸付金の返済についてうかがいます ◆

問16 現在、借りている奨学金・貸付金は、将来、どなたが返済していくご予定ですか。

(※あてはまるもの1つに○)

- |                              |       |
|------------------------------|-------|
| 1. 子ども（奨学金・貸付金を借りて進学した子ども本人） | (34人) |
| 2. 親                         | (14人) |
| 3. 親と子                       | (27人) |
| 4. まだわからない                   | (4人)  |
| 5. その他                       | (0人)  |
| 無回答                          | (1人)  |

問17 奨学金の返済についてどう思われますか。(※あてはまるもの1つに○)

- |                               |       |
|-------------------------------|-------|
| 1. 返済の見通しがたっている               | (17人) |
| 2. 返済の見通しはたっていないが、何とか返済できると思う | (48人) |
| 3. 返済の見通しがたたず、とても不安           | (7人)  |
| 4. 返済については、まだ考えていない           | (5人)  |
| 5. その他                        | (3人)  |

問18 お子さんの教育や進路についての不安や悩み、行政への要望などをご自由にご記入ください。

( )

ご協力ありがとうございました。

調査の内容に関するお問合せは、

東京都社会福祉協議会 総務部企画担当 堀口・土屋・宮沢

Tel: 03-3268-7171 FAX: 03-3268-7433 までご連絡下さい。

※ご不便をおかけいたしますが、平成22年12月29日(水)～平成23年1月3日(月)までは、年末年始休業期間となります。

**東京都社会福祉協議会**  
**低所得世帯の子どものための情報支援構築プロジェクト**  
**委員名簿**

平成 23 年 3 月 31 日現在

	名前	所属	備考
1	湯澤直美 《委員長》	立教大学コミュニティ福祉学部教授	学識経験者
2	池谷秀登	板橋区板橋福祉事務所査察指導員（～H23年3月） 帝京平成大学現代ライフ学部教授（H23年4月～）	福祉事務所
3	渋谷行成	かしわヴィレッジ施設長	母子生活支援施設
4	川上寿世	カリヨンタやけ荘ホーム長	自立援助ホーム
5	村木栄一	東京都学校事務職員制度研究会事務局長・板橋区立中学校事務職員会会長・板橋区立志村第二中学校職員	教育現場の立場から
6	綿貫公平	都内公立中学校教諭・全国進路指導研究会	教育現場の立場から
7	工藤長彦	あしなが育英会理事	奨学金実施団体
8	若井田崇	江戸川中3勉強会	学習支援を行うグループの立場から

事務局…東京都社会福祉協議会総務部企画担当

高校進学のために必要な情報と支援  
～奨学金を利用する高校生と保護者のアンケートから～

平成 23 年 3 月発行

---

発行／社会福祉法人 東京都社会福祉協議会  
(低所得世帯の子どものための情報支援構築プロジェクト)  
〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸 1-1  
TEL 03 (3268) 7171  
FAX 03 (3268) 7433  
<http://tcsw.tvac.or.jp/>

---



本書は、社会福祉法人東京都共同募金会の配分金により作成いたしました。

## 高校進学のために必要な情報と支援

～ 奨学金を利用する高校生と保護者のアンケートから ～

発行／社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

(低所得世帯の子どものための情報支援構築プロジェクト)

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1

TEL 03 (3268) 7171

FAX 03 (3268) 7433

<http://tcsw.tvac.or.jp/>